



HP ThinPro 4.3

管理者ガイド

© Copyright 2013 Hewlett-Packard
Development Company, L.P.

Microsoft および Windows は、米国
Microsoft Corporation の米国およびその他
の国における登録商標です。

本書で取り扱っているコンピューターソフト
ウェアは秘密情報であり、その保有、使
用、または複製には、HP から使用許諾を得
る必要があります。FAR 12.211 および
12.212 に従って、商用コンピューターソ
フトウェア、コンピューターソフトウェア
資料、および商用製品の技術データは、
ベンダー標準の商用ライセンスのもとで
米国政府に使用許諾が付与されます。

本書の内容は、将来予告なしに変更される
ことがあります。HP 製品およびサービス
に対する保証は、当該製品およびサービス
に付属の限定的保証規定に明示的に記載さ
れているものに限られます。本書のいかな
る内容も、当該保証に新たに保証を追加す
るものではありません。本書に記載されて
いる製品情報は、日本国内で販売されてい
ないものも含まれている場合があります。
本書の内容につきましては万全を期してお
りますが、本書の技術的あるいは校正上の
誤り、省略に対しては、責任を負いかねま
すのでご了承ください。

目次

| | |
|--|----------|
| 1 はじめに | 1 |
| HP ThinPro の使用 | 1 |
| 管理者モードへのログイン | 2 |
| タスクバーの各部 | 3 |
| 2 セットアップおよびインストール | 4 |
| HP Easy Tools ウィザード | 4 |
| インストール | 4 |
| 3 接続 | 5 |
| 接続 | 6 |
| 切断 | 6 |
| 全般設定 | 6 |
| Citrix ICA | 6 |
| Web ブラウザー | 9 |
| RDP | 9 |
| 追加 | 10 |
| Citrix | 11 |
| Citrix 接続管理機能 | 11 |
| Citrix Receiver の機能 | 11 |
| HDX MediaStream サポート マトリックス | 12 |
| Citrix 接続サポート マトリックス | 13 |
| Citrix 接続の作成 | 13 |
| RDP | 14 |
| RDP クライアント接続 | 14 |
| RDP7 接続の作成 | 14 |
| HP TeemTalk | 18 |
| HP TeemTalk 作成ウィザードによる HP TeemTalk 接続の追加 | 18 |
| 手動による HP TeemTalk 接続の追加 | 19 |
| Web ブラウザー | 20 |
| RGS | 20 |
| VMware Horizon View | 21 |
| VMware Horizon View 接続の設定 | 21 |
| VMware Horizon View Manager サーバーへのログイン | 22 |

| | |
|---|-----------|
| VMware Horizon View でキオスク モードを使用 | 23 |
| VMware Horizon View でマルチメディア リダイレクトを使用 | 23 |
| VMware Horizon View でマルチモニター セッションを使用 | 23 |
| VMware Horizon View でキーボード ショートカットを使用 | 23 |
| VMware Horizon View でデバイス リダイレクトを使用 | 24 |
| VMware Horizon View で USB リダイレクトを使用 | 24 |
| VMware Horizon View で大容量記憶装置リダイレクトを使用 | 24 |
| VMware Horizon View でプリンター リダイレクトを使用 | 24 |
| VMware Horizon View でオーディオ リダイレクトを使用 | 24 |
| VMware Horizon View でスマート カード リダイレクトを使用 | 25 |
| VMware Horizon View 詳細設定オプション | 26 |
| 高度なコマンドライン引数の使用 | 26 |
| RDP ではなく PCoIP を使用してデスクトップ接続を開始 | 26 |
| XDMCP | 26 |
| SSH | 27 |
| Telnet | 28 |
| カスタム | 29 |
| コピー | 29 |
| 削除 | 29 |
| 編集 | 29 |
| ユーザー ビュー | 30 |
| 4 コントロール パネル | 31 |
| 周辺機器 | 31 |
| クライアント アグリゲーション | 32 |
| クライアント アグリゲーションの概要 | 32 |
| クライアント アグリゲーションの設定 | 34 |
| アグリゲーション クライアントの設定 | 34 |
| アグリゲーション サーバーの設定 | 34 |
| クライアント アグリゲーションの無効化 | 37 |
| ディスプレイの設定 | 37 |
| プロファイルの追加 | 37 |
| プロファイルの編集 | 38 |
| プロファイルの削除 | 38 |
| キーボードのレイアウト | 38 |
| マウス | 39 |
| プリンター | 39 |
| SCIM 入力メソッドの設定 | 39 |

| | |
|--|----|
| サウンド | 39 |
| ThinPrint | 40 |
| タッチ スクリーン | 40 |
| USB デバイスのリダイレクト | 40 |
| セットアップ | 41 |
| 背景マネージャー | 41 |
| 日付と時刻 | 42 |
| 言語 | 42 |
| ネットワーク | 43 |
| スクリーンセーバー | 44 |
| セキュリティ | 45 |
| HP ThinPro の構成 | 45 |
| 接続およびコントロール パネルのユーザー アクセス権の設定 | 46 |
| ユーザーのデスクトップおよびシステムのオプションの設定 | 46 |
| 管理 | 46 |
| AD/DDNS マネージャー | 47 |
| HP Easy Deploy | 47 |
| HP Easy Config | 47 |
| HP Easy Update | 47 |
| 工場出荷時設定のリセット | 47 |
| HP Automatic Update | 48 |
| HPDM Agent | 48 |
| SSHHD マネージャー | 48 |
| ThinState | 48 |
| HP ThinPro イメージの管理 | 49 |
| FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ | 49 |
| リモート サイトからの HP ThinPro イメージの展開 | 49 |
| 起動可能な USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro イメージ のキャプチャ | 50 |
| 起動可能な USB フラッシュ ドライブからの HP ThinPro イメー ジの展開 | 51 |
| HP ThinPro 構成の管理 | 51 |
| FTP サーバーへの HP ThinPro 構成の保存 | 51 |
| リモート サーバーからの HP ThinPro 構成の復元 | 52 |
| USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro 構成のキャプチャ | 52 |
| USB フラッシュ ドライブからの HP ThinPro 構成の復元 | 52 |
| VNC シャドウイング | 53 |
| 詳細設定 | 53 |
| CDA モード | 53 |

| | |
|---|----|
| 証明書 | 54 |
| 証明書のインポート | 54 |
| 証明書の削除 | 55 |
| 証明書の表示 | 55 |
| VMware Horizon View の HTTPS および証明書管理の要件 | 56 |
| DHCP オプション マネージャー | 56 |
| テキスト エディター | 57 |
| X ターミナル | 57 |
| キーボード ショートカット | 57 |

5 システム情報 58

| | |
|----------------|----|
| 全般 | 59 |
| ネットワーク | 59 |
| ネット ツール | 60 |
| ソフトウェア情報 | 60 |
| システム ログ | 60 |

索引 61

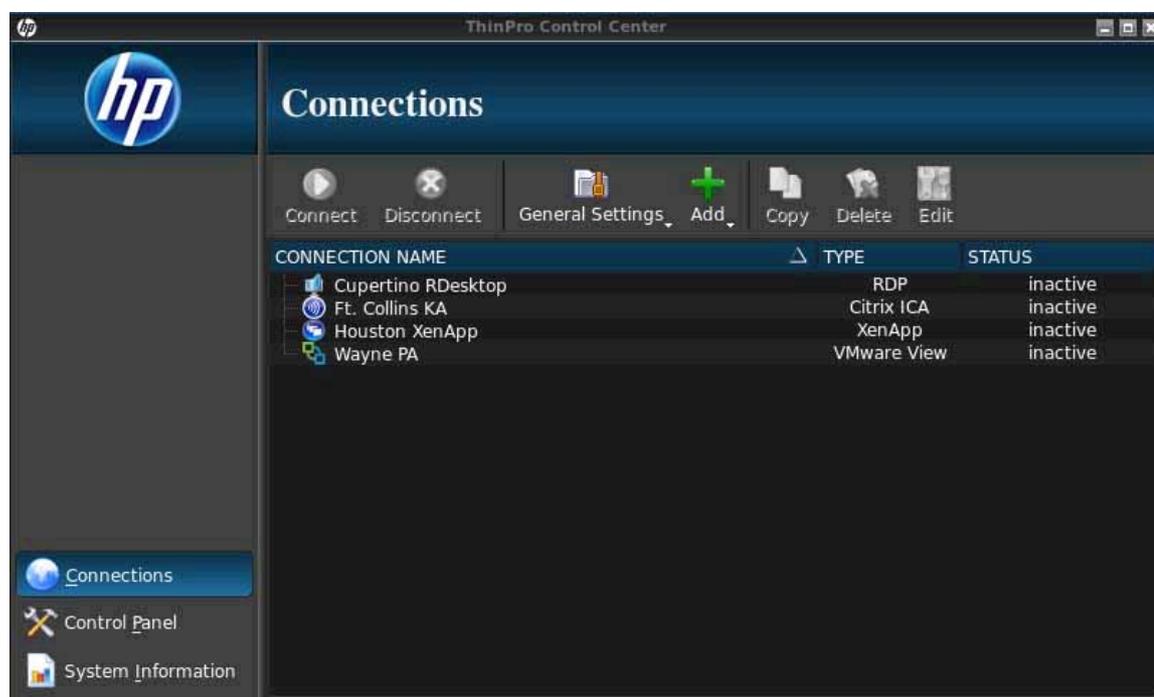
1 はじめに

HP ThinPro オペレーティング システムでは、すべてのユーザーおよび管理者のフロント エンドとなるダッシュボードへのアクセスが単一のコンソールインターフェイスからできるようになり、ユーザー インターフェイスの使いやすさがさらに向上しています。[HP Connection Manager]の初期設定の表示では、従来の接続の種類と、設定情報を共有してアクセスできる最新の VDI (Virtual Desktop Infrastructure) ブローカー接続が統合されています。管理者は、[Easy Config]セットアップ ウィザード、[コントロール パネル]、および[システム情報]の各レイヤーにワンクリックでアクセスできます。

HP ThinPro の使用

初期設定では、Thin Client の電源を入れたときに HP ThinPro のインターフェイスが表示されます。デスクトップには、音量アイコン、時計、およびアプリケーションを開くためのタスクバーが表示されます。HP ThinPro インターフェイスの表示および非表示を切り替えるには、タスクバーの左側にある[ThinPro コントロール センター]をクリックします。

図 1-1 HP ThinPro コントロール センター



HP ThinPro では、ホストとリモート アプリケーションとの接続を開始および管理できます。管理者としてログインし、ユーザー モードで表示される接続および接続の種類を設定します。管理者はさらに、ユーザーが接続を削除または作成するのを制限することもできます。

管理者モードへのログイン

HP ThinPro インターフェイスのすべてのコンポーネントにアクセスするには、管理者アクセス権でログインする必要があります。Thin Client が管理者モードのときは、以下の点が異なります。

- コントロールセンターの上部が青から赤に変わります。
- ウィンドウのタイトルに「(管理者モード)」という説明が追加されます。

HP ThinPro は、初期設定ではユーザーモードで開きます。管理者モードに切り替えるには、以下の操作を行います。

1. 画面の左下隅にある HP ロゴをクリックします。
または
画面背景にカーソルを置き、右クリックします。
2. [管理者/ユーザーモードの切り替え]を選択します。
3. [管理者モードに切り替え]ボックスの[管理者パスワード]にパスワードを入力し、[OK]をクリックします。

 **注記：** 管理者モードで初めてログインするときは、パスワードを再入力してから[OK]をクリックします。

以下の操作でモードを切り替えることもできます。

1. **Ctrl + Alt + Shift + S** を押して[管理者モードに切り替え]を選択してから、[OK]をクリックします。
2. フィールドに管理者パスワードを入力して、[OK]をクリックします。

タスクバーの各部

タスクバーは、画面の下部に沿って表示されるバーで、その上に複数のアイコンやボタンなどが表示されます。

図 1-2 HP ThinPro タスクバー



1. [HP]ボタン：HP ThinPro オペレーティング システムの基本機能（コントロールセンター、ログアウト、再起動、電源オフなどの機能）にアクセスできます。
2. ウィンドウ タスク：この領域には、アクティブな各ウィンドウのアイコンが表示されます。
3. 音量調整：サウンド調整ダイアログを表示して、HP Thin Client の音量を変更できます。
4. ネットワーク アイコン：アクティブなネットワーク接続に関する情報が表示されます。
5. 仮想キーボード：ソフトウェア キーボードが表示されます。仮想キーボードからの入力は、現在フォーカスのあるウィンドウにリダイレクトされます。仮想キーボードは、キーボード イベントおよびマウス クリックまたはタッチスクリーン クリックの両方に反応します。クライアント全体のキーボード レイアウトを変更しないで、仮想キーボードのレイアウトだけを変更できます。たとえば、アクセント記号付き文字をいくつか入力する間だけフランス語レイアウトの仮想キーボードを使用し、その後すぐに通常のキーボード レイアウトに戻ることができます。仮想キーボードのレイアウトは、そのウィンドウが開いている間のみアクティブになります。
6. 時計表示：HP Thin Client の時計に応じた時刻が表示されます。時計表示上にカーソルを置くと、現在の日付を示すツールチップが表示されます。

2 セットアップおよびインストール

HP ThinPro では、ウィザードベースのインターフェイスを使用して、Thin Client を簡単に設定できます。

HP Easy Tools ウィザード

HP Easy Tools ウィザードを使用すると、HP ThinPro を簡単に設定および保守できます。初めて HP Thin Client を起動したときは、このウィザードが自動的に起動します。初期セットアップ後にこのウィザードを起動するには、左側のパネルにある[HP]アイコンをクリックします。

HP Easy Tools ウィザードは、2つの主要機能で構成されます。HP Easy Update および HP Easy Config です。HP Easy Update では、新しいイメージ、サービスパック、または追加パッケージによって HP ThinPro イメージを最新の状態に保つことができます。HP Easy Config では、HP ThinPro を簡単に設定できます。HP Easy Update および HP Easy Config のどちらも、[コントロールパネル] → [管理] タブから利用できます。

HP Easy Tools の Thin Client 管理スイートについて詳しくは、<http://www.hp.com/support/> にある『HP Easy Tools 管理者ガイド』を参照してください。

インストール

Thin Client のセットアップおよび構成が完了したら、そのイメージまたは構成をコピーし、HP ThinState を使用してモデルとハードウェアが同一の他の Thin Client に展開します。詳しくは、[48 ページの ThinState](#) を参照してください。

3 接続

HP ThinPro では、リモート接続にアクセスし、管理することができます。HP ThinPro のすべての機能にアクセスするには、管理者としてログインする必要があります。ユーザーとしては、接続を実行したり、HP ThinPro の一部の機能にアクセスすることしかできません。

設定されている場合、現在ターミナルにログイン中のユーザーに割り当てられた、すべてのサーバー接続およびアプリケーション接続が一覧表示されます。各接続について、接続の名前、種類、および状態が表示されます。

 **注記：** 表示されている接続は、どれもダブルクリックするだけで有効になります。

管理者モードでは、**[接続]**をクリックして、接続の設定および割り当てができます。

図 3-1 HP ThinPro コントロール センター：管理者モード



[接続]ウィンドウには、管理者がユーザーに割り当てることができるすべての接続が一覧表示されません。このウィンドウから接続を追加、編集、および削除できます。

- **[接続名]**：接続名が表示されます。この列から接続名を変更することはできません。
- **[種類]**：接続の種類が表示されます。この列から接続の種類を変更することはできません。
- **[状態]**：接続状態（有効または無効）が表示されます。

接続の一覧の上には、以下の 8 つのボタンがあります。

- [6 ページの接続](#)：選択されている接続を開始するときにクリックします。
- [6 ページの切断](#)：選択されている接続を切断するときにクリックします。
- [6 ページの全般設定](#)：接続設定を管理するときにクリックします。

- [10 ページの追加](#) : クリックすると新しい接続が作成され、利用可能な接続の一覧に追加されます。
- [29 ページのコピー](#) : クリックすると接続がコピーされ、利用可能な接続の一覧に追加されます。
- [29 ページの削除](#) : 選択されている接続を削除するときにクリックします。選択されている接続は、現在ターミナルにログイン中のユーザーだけでなく、すべてのユーザーに割り当てられた接続の一覧から削除されます。
- [29 ページの編集](#) : 選択されている接続を編集するときにクリックします。
- [30 ページのユーザー ビュー](#) : ユーザー モードで表示されている接続を編集するときにクリックします。

接続

接続を開始するには、[状態]が[停止中]になっている接続を[接続名]の下から選択して、[接続]をクリックします。

切断

接続を終了するには、[状態]が[接続中]になっている接続を[接続名]の下から選択して、[切断]をクリックします。

全般設定

[全般設定]の内容は、接続の種類が同じであるすべての接続で共有されます。接続の種類は、Citrix ICA、Web ブラウザー、および RDP の 3 つです。接続の種類別のオプションを以下に示します。

Citrix ICA

以下の表に、Citrix ICA 接続に利用できるオプションの一覧を示します。

表 3-1 Citrix ICA 接続のオプション

| 項目 | 説明 |
|---------------------------|--|
| [HDX MediaStream]を有効にする] | [HDX MediaStream]は、可能な場合はいつでも、Thin Client の処理能力を利用してマルチメディア コンテンツを表示させます。データセンター側からは、圧縮されたマルチメディア情報がネイティブな形式で Thin Client に直接送信されます。操作性は、お使いの Thin Client の処理能力およびマルチメディア機能によって異なります |
| [Windows の警告音を有効にする] | Windows の警告音を有効にします |
| [ICA アクセラレーション (LAN のみ)] | ICA アクセラレーションを有効にします |
| [バッキングストアを許可する] | バッキングストアを許可します |
| [サーバーの再描画を使用する] | サーバーの再描画機能を使用します |
| [接続前の情報ボックスを無効にする] | 接続の完了前に表示される情報ボックスを表示しません |
| [非同期 COM ポート ボーリングを使用する] | COM ポートの非同期ポーリングを使用します |
| [スマートカード ログオンを許可する] | クライアントに接続されたスマートカードをログオン認証に使用します |

表 3-1 Citrix ICA 接続のオプション (続き)

| 項目 | 説明 |
|--------------------------|---|
| [オフスクリーンサーフェスを有効にする] | 画面の更新を画面ではなくメモリ内ビットマップに描画するよう ICA クライアントに指示します。これにより、帯域幅を有効に活用できます |
| [セッションの共有を有効にする] | セッションの共有を有効にします |
| [自動再接続を有効にする] | 切断された接続の自動再接続を有効にします |
| [ローカルの IM の使用を有効にする] | ローカルの入力方式を使用してキーボード入力を処理します。このオプションは、ヨーロッパ言語でのみサポートされています |
| [EUKS 番号を使用する] | Windows サーバー上での拡張 Unicode キーボード サポート (EUKS : Extended Unicode Keyboard Support) の使用を制御します 0 = 拡張 Unicode キーボード サポートなし 1 = 拡張 Unicode キーボード サポートをフォールバックとして使用 2 = 可能な限り拡張 Unicode キーボード サポートを使用 |
| [最小ビットマップ キャッシュ サイズ] | ビットマップのキャッシュ サイズを最小限に抑えます |
| [データ圧縮を使用する] | この接続にデータ圧縮を使用します |
| [中ボタンでの貼り付けを有効にする] | マウスの中ボタンをクリックして貼り付け操作を実行できるようにします |
| [ビットマップにディスク キャッシュを使用する] | 接続のビットマップにディスク キャッシュを使用します |
| [サウンド] | 使用する音質を指定します。設定可能な値は次のとおりです : [高品質]、[中品質]、[低品質] |
| [SpeedScreen] | 設定可能な値は次のとおりです : [自動]、[オン]、[オフ] |
| [マウス クリックのフィードバック] | 設定可能な値は次のとおりです : [自動]、[オン]、[オフ] |

表 3-2 Citrix ICA 接続のローカル リソース オプション

| 項目 | 説明 |
|----------------|--|
| [オーディオ入力を許可する] | Thin Client からのオーディオ入力を許可します |
| [プリンターの自動作成] | プリンターを自動的に作成します |
| [ドライブマッピング] | [ドライブマッピングを有効にする] ドライブマッピングをローカルパスに指定できるようにします |

表 3-3 Citrix ICA 接続のウィンドウ オプション

| 項目 | 説明 |
|---------------------|---|
| [シームレス ウィンドウを有効にする] | HP ThinPro のローカル デスクトップ上にネイティブ アプリケーションであるかのように、ウィンドウを 1 つだけ表示して操作できるようにします |
| [初期設定のウィンドウ サイズ] | 初期設定のウィンドウ サイズを指定します。設定可能な値は次のとおりです : [全画面表示]、[固定サイズ]、[画面サイズに対する割合] |

表 3-3 Citrix ICA 接続のウィンドウ オプション (続き)

| 項目 | 説明 |
|--------------------|--|
| [初期設定のウィンドウの色] | 初期設定のウィンドウの色を指定します。設定可能な値は次のとおりです：[16]、[256]、[16 ビット]、[24 ビット]、[自動] |
| [初期設定の 256 色マッピング] | このオプションは、[初期設定のウィンドウの色]が[256]に設定されている場合にのみ有効です。設定可能な値は次のとおりです：[共有：近似色]、[プライベート：同色] |

表 3-4 Citrix ICA 接続のファイアウォール オプション

| 項目 | 説明 |
|--------------------------|---|
| [プロキシ] | プロキシ サーバーの設定 |
| [プロキシの種類] | 設定可能な値は次のとおりです：[なし：直接接続]、[SOCKS]、[Secure：HTTPS]、[ブラウザーの設定を使用]、[プロキシの自動検出] |
| [プロキシアドレス] | プロキシ サーバーの IP アドレス |
| [プロキシポート] | プロキシ サーバーに接続するためのポート |
| [ユーザー名] | プロキシ サーバーへの接続に使用するユーザー名 |
| [パスワード] | プロキシ サーバーへの接続に使用するパスワード |
| [ファイアウォール接続に代替アドレスを使用する] | Citrix ICA クライアントが、ファイアウォール内のサーバーへのアクセス時に、サーバーに定義された代替アドレスを要求します。代替アドレスは、サーバー ファーム内の各サーバーに指定する必要があります |

表 3-5 Citrix ICA 接続のサーバーの場所オプション

| 項目 | 説明 |
|--------------|---|
| [初期設定のプロトコル] | この接続の初期設定のプロトコル。設定可能な値は次のとおりです：[TCP/IP ブラウザー]、[TCP/IP HTTP ブラウザー]、[SSL/TLS HTTPS ブラウザー] |
| [TCP アドレス] | Citrix サーバーの TCP アドレス。3 つのボタンを使用して、一覧のエントリを追加、編集、または削除できます |
| [HTTP アドレス] | Citrix サーバーの http アドレス。3 つのボタンを使用して、一覧のエントリを追加、編集、または削除できます |

表 3-6 Citrix ICA 接続のキーボード ショートカット オプション

| 項目 | 説明 |
|----------------------------|--|
| [キーボード ショートカットでの操作] | ファンクション キーの操作を指定します。設定可能な値は次のとおりです：[変換]、[全画面表示のデスクトップでのみ直接転送]、[直接転送] |
| [直接キー操作を停止] | [キーボード ショートカットでの操作]が[変換]に設定されているときは無効です |
| [各ファンクション キーおよびそのマッピングの一覧] | [キーボード ショートカットでの操作]が[変換]または[全画面表示のデスクトップでのみ直接転送]に設定されているときにのみ有効です |

表 3-7 Citrix セッションオプション

| 項目 | 説明 |
|----------------------|---|
| [自動ログアウト遅延] | <p>[自動ログアウト遅延]ボックスは、複数の公開されたリソースを使用する Citrix サーバーに適用されます。お使いのシステムが該当する場合は、[自動ログアウト遅延]を使用して、最後に Xen に公開されたリソースの終了から、自動的にユーザーをログアウトして最初のログイン画面に戻るまでの秒数を設定します。</p> <p>最初のログインの後、アプリケーションを起動しない場合は、[自動ログアウト遅延]オプションを使用して、自動的にユーザーをログアウトして最初のログイン画面に戻るまでの秒数を設定します。</p> <p>注記： Citrix の処理の遅延により、自動ログアウトの処理時間が延長される可能性があります。</p> <p>ヒント： 必要に応じて、[自動ログアウト遅延]の値を 0 未満に設定してください。その場合、自動ログアウトは行われません</p> |
| [単一のアプリによる自動ログアウト遅延] | <p>[単一のアプリによる自動ログアウト遅延]は、単一の公開されたアプリケーションまたはデスクトップを使用する Citrix サーバーに適用されます。お使いのシステムが該当する場合は、[単一のアプリによる自動ログアウト遅延]ボックスを使用して、Xen に公開されたリソースの終了から、自動的にユーザーをログアウトして最初のログイン画面に戻るまでの秒数を設定します。</p> <p>注記： Citrix の処理の遅延により、自動ログアウトの処理時間が延長される可能性があります。</p> <p>ヒント： 必要に応じて、[自動ログアウト遅延]の値を 0 未満に設定してください。その場合、自動ログアウトは行われません</p> |

Web ブラウザー

Web ブラウザー接続には以下の設定オプションがあります。

表 3-8 Web ブラウザー接続の一般オプション

| 項目 | 説明 |
|-------------------|--|
| [Web ブラウザー設定] | このボタンをクリックすると、Web ブラウザーのオプション ダイアログが開きます |
| [接続固有の設定の管理を許可する] | Web ブラウザーで接続設定を管理できるようにします |

RDP

RDP 接続には以下の設定オプションがあります。

表 3-9 RDP 接続の一般オプション

| 項目 | 説明 |
|------------------|---|
| [次を使用してホスト名を送信] | Thin Client の MAC アドレスまたはホスト名を指定したホスト名としてリモートシステムに送信します |
| [マルチメディアのリダイレクト] | マルチメディアリダイレクトを有効にする場合は 1 を選択します。マルチメディアリダイレクトを無効にする場合は 0 を選択します |

追加

[追加]ボタンを使用して、新しい接続を作成します。新しい接続を作成するときは、ウィザード形式で表示される説明に沿って、接続に固有のオプションを設定できます。ウィザードのダイアログボックスには[前へ]ボタンおよび[次へ]ボタンがあり、これらを使用して前または次のウィザードダイアログに移動できます。

どの種類の接続にも、ウィザード内に[詳細設定]というタイトルのダイアログがあります。ここには、すべての種類の接続に共通の設定が含まれます。次の表に、接続ウィザードの[詳細設定]のオプションを示します。

表 3-10 新規接続の詳細設定

| 項目 | 説明 |
|-----------------------|--|
| [予備接続] | 接続を開始できなかった場合に、代わりとして予備接続で開始を試みます 注記： このオプションは、接続の種類のうち、[RGS]および[VMware Horizon View]では利用できません |
| [自動開始の優先度] | 自動開始の優先度によって、接続を開始する順序が決まります。[0]に設定すると、接続が無効になります。その他の値に設定すると、その順番で開始されます 設定可能な値は次のとおりです： [0]、[1]、[2]、[3]、[4]、[5] |
| [自動再接続] | この接続が切断された場合に、自動的に再接続を試みます |
| [接続前にネットワークを待機] | 接続を開始するためにネットワークが必要ない場合、またはネットワークでの接続開始を待たない場合は、このオプションを無効にします |
| [デスクトップにアイコンを表示する] | この接続のデスクトップアイコンを作成します |
| [ユーザーによるこの接続の起動を許可する] | 管理者以外のユーザーがこの接続を起動できるようにします |
| [ユーザーによるこの接続の編集を許可する] | 管理者以外のユーザーがこの接続を変更できるようにします |

 **注記：** [ユーザーによる...を許可する]オプションは管理者モードでのみ設定できます。

以下の種類の接続を作成できます。

- [11 ページの Citrix](#)
- [14 ページの RDP](#)
- [20 ページの Web ブラウザー](#)
- [20 ページの RGS](#)
- [21 ページの VMware Horizon View](#)
- [26 ページの XDMCP](#)
- [27 ページの SSH](#)
- [28 ページの Telnet](#)
- [29 ページのカスタム](#)

Citrix

Citrix 接続は、Citrix SBC (Server-Based Computing) および VDI (Virtual Desktop Infrastructure) サービスにアクセスします。

接続ウィザードを使用して、Citrix リモート接続を設定します。初期設定値が要件を満たしていない場合は、拡張オプションを使用して接続の設定プロセスを完了します。

Citrix 接続管理機能

Citrix 接続を使用するときは、自動的に次の機能を実行するようにクライアントを設定できます。

- 公開リソースが 1 つしかないときにリソースを起動する
- 指定したリソースを起動する
- 公開デスクトップを起動する
- 接続開始時にセッションを再接続する
- 指定したタイムアウト時間の後、接続をログオフする
- 次の設定可能なショートカットを使用して公開リソースを起動する：
 - デスクトップ アイコン
 - スタートメニュー アイコン
 - タスクバー アイコン

Citrix Receiver の機能

Citrix Receiver には、以下の特長があります。

- リリース時点での最新バージョン：
 - 12.1.5 (x86)
 - 12.5 (ARM/SoC)
- ウィンドウのサイズおよび深度の設定
- シームレス ウィンドウのサポート
- 音質設定
 - 低
 - 中
 - 高
 - 無効
- 静的なドライブ マッピング
- 動的なドライブ マッピング
- XenDesktop および VDI-in-a-Box の USB リダイレクト
- スマート カード仮想チャネル機能

 **注記：** この機能は、PNAgent を使用しない直接接続時に、スマート カード ログイン/認証と同等に機能します。PNAgent での接続時には、スマート カード 仮想チャネルの有効または無効を切り替えることができますが、初期接続時の認証は提供しません。XenApp および XenDesktop でスマート カード 認証を行うためには、Citrix 接続ではなく Web ブラウザー接続を使用し、Web アクセスが有効になっていることを確認してください。

- プリンターのマッピング
- シリアル ポートのマッピング
- HDX MediaStream (ほとんどのモデルでハードウェアによって高速化される)
- HDX Flash リダイレクト (x86 のみ)
- HDX Web カメラ ビデオ圧縮
- HDX RealTime (MS Lync への最適化) (x86 のみ)

HDX MediaStream サポート マトリックス

表 3-11 HDX MediaStream サポート マトリックス

| 機能 | サポート |
|-------------|--|
| フレーム レート | <ul style="list-style-type: none"> ● 24 fps |
| 解像度 | <ul style="list-style-type: none"> ● 1080p ● 720p |
| ビデオ コンテナ | <ul style="list-style-type: none"> ● WMV ● AVI ● MPG ● MPEG ● MOV ● MP4 |
| ビデオ コーデック | <ul style="list-style-type: none"> ● WMV2 ● WMV3/VC-1 ● H.264/AVC/MPEG-4 Part 10 ● MPEG-4 Part 2 ● H.263 ● DivX ● Xvid ● MPEG1 |
| オーディオ コーデック | <ul style="list-style-type: none"> ● MP3 ● WMA ● AAC ● PCM ● mpeg-audio ● MLAW/ULAW |

Citrix 接続サポートマトリックス

以下の表は、サポートされる Citrix バックエンドを示しています。

表 3-12 Citrix 接続サポートマトリックス

| | | バックエンド | | |
|----------|-----------------|-------------------|-------------------|--------------|
| | | XenApp | XenDesktop | VDI-in-a-Box |
| アクセス タイプ | 直接 (レガシー) | 4.5 / 5 / 6 / 6.5 | | |
| | ネイティブ (PNAgent) | 4.5 / 5 / 6 / 6.5 | 4.5 / 5.5 / 5.6.5 | 5.x |
| | Web ブラウザー | 4.5 / 5 / 6 / 6.5 | 4.5 / 5.5 / 5.6.5 | 5.x |

Citrix 接続の作成

1. 以下の Citrix サーバー情報を確認します。

- ホスト名
または
- IP アドレス

 **注記：** HTTPS サイト上のサーバーとの接続を設定している場合は、サイトの完全修飾ドメイン名 (FQDN) および Citrix 証明書ストア内にローカル ルート証明書を用意してください。

2. HP ThinPro インターフェイスで、管理者としてログインします。
3. [接続]→[追加]→[Citrix]の順に選択します。
4. [設定]ダイアログ ボックスに、次の情報を入力します。

表 3-13 Citrix 接続設定

| オプション | 説明 |
|-------------|---|
| [名前] | 接続の名前 |
| [サーバーの URL] | Citrix サーバーのホスト名または IP アドレス。HTTPS サイト上のサーバーとの接続を設定している場合は、サイトの FQDN を入力し、Citrix 証明書ストア内にローカル ルート証明書を入力します |
| [ユーザー名] | 接続に使用するユーザー名 |
| [パスワード] | 接続に使用するパスワード |
| [ドメイン] | 接続に使用するドメイン |
| [リソースの自動起動] | 自動起動リソースの名前 |

5. 完了したら、[次へ]をクリックします。
6. [詳細設定]ダイアログ ボックスで、適切なオプションを選択します。

表 3-14 Citrix 接続詳細設定

| オプション | 説明 |
|--------|---------------------------------------|
| [予備接続] | 予備接続を選択します。接続を開始できなかった場合、予備接続で開始を試みます |

表 3-14 Citrix 接続詳細設定 (続き)

| オプション | 説明 |
|--------------------|---|
| [自動開始の優先度] | 接続を開始する順序を決定します。[0]に設定すると、接続が無効になります。その他の値に設定すると、その順番で開始されます。設定可能な値は次のとおりです：[0]、[1]、[2]、[3]、[4]、[5] |
| [接続前にネットワークを待機] | 接続を開始するためにネットワークが必要ない場合、またはネットワークでの接続開始を待たない場合は、このオプションを無効にします |
| [デスクトップにアイコンを表示する] | この接続のデスクトップアイコンを作成します |

7. [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを閉じます。

 **注記：** Citrix USB リダイレクトを有効にするには、USB マネージャー ユーティリティを使用します。詳しくは、[40 ページの USB デバイスのリダイレクト](#)を参照してください。

RDP

Microsoft® RDP (Remote Desktop Protocol) を使用すると、Windows®ベースのアプリケーションでネットワーク接続経由の通信を実行できるようになります。Microsoft RDP は、Windows NT®以降のすべてのバージョンの Windows に搭載されています。

RDP クライアント接続

RDP クライアントは FreeRDP 1.0 に基づいており、RDP 7.1 の要件に対応するために、以下の機能を備えています。

- ハードウェア高速化された RemoteFX
- デスクトップエクスペリエンス機能を有効にした Windows ホスト (Windows 7 または Windows Server 2008 R2) に接続する場合の MMR (マルチメディア リダイレクト) のサポート
- Windows 7 リモート デスクトップ仮想化ホストへの接続時の USBR (USB リダイレクト) のサポート
- 双方向オーディオ
- マルチモニターをサポート

RDP7 接続の作成

1. HP ThinPro デスクトップで、[接続]を選択し、[追加]をクリックします。
2. [追加]の下の[RDP7]を選択します。
3. [接続]ダイアログボックスの[ネットワーク]で、以下の表に示す適切なネットワーク接続オプションを設定します。

表 3-15 RDP ネットワーク接続オプション

| オプション | 説明 |
|--------|--|
| [名前] | このネットワーク接続の名前を入力します |
| [アドレス] | このネットワーク接続の IP アドレスを入力します |
| [ポート] | [ポート]では以下のどちらかを実行します： <ul style="list-style-type: none"> • ネットワーク ポート番号を入力します |

表 3-15 RDP ネットワーク接続オプション (続き)

| オプション | 説明 |
|---------------------|---|
| | <ul style="list-style-type: none"> 上向き矢印キーおよび下向き矢印キーを使用して、適切なポート番号を選択します |
| [ユーザー名] | このネットワーク接続のユーザー名を入力します |
| [パスワード] | このネットワーク接続のパスワードを入力します |
| [ドメイン] | このネットワーク接続のドメイン名を入力します |
| [スマートカード ログインを許可する] | 必要に応じてこのオプションを選択すると、ログイン資格情報の代わりにローカルに接続されたスマートカードを使用できます |

4. [次へ]をクリックして続行します。
5. [接続]ダイアログ ボックスの[モード]で、以下のオプションのうちのどれかを選択します。
 - a. 標準のデスクトップ
 - b. リモート アプリケーション
 - c. 代替シェル
6. 手順 5 で選択したモードに応じて、以下の表の情報を入力します。
 - a. 標準のデスクトップ：以下の「RDP 標準デスクトップ オプション」の表のオプションを指定します。

表 3-16 RDP 標準デスクトップ オプション

| オプション | 説明 |
|------------------|--|
| [ウィンドウの装飾を表示しない] | [ウィンドウの装飾を表示しない]では、ウィンドウの固定サイズまたは割合を選択できます。メニューバー、最小化オプション、閉じるオプション、ウィンドウ パネルの枠線などの画面要素は非表示になります |
| [ウィンドウのサイズ] | 次のウィンドウ サイズのどれかを選択します： <ul style="list-style-type: none"> [全画面] [固定] [割合] |
| [割合によるサイズ] | [ウィンドウのサイズ]ボックスで[割合]を選択した場合、画面に対するデスクトップウィンドウの割合を入力または選択します |
| [固定サイズ] | [ウィンドウのサイズ]ボックスで[固定]を選択した場合、デスクトップウィンドウの幅および高さをピクセル単位で入力または選択します |

- b. リモート アプリケーション：「RDP アプリケーション オプション」の表の説明に従って[アプリケーション]ボックスに値を指定します。

表 3-17 RDP アプリケーション オプション

| オプション | 説明 |
|------------|--|
| [アプリケーション] | アプリケーションの RDP アプリケーションパスを入力します。 RDP のシームレス ウィンドウ モードを使用するには、以下の操作を行います。 |

表 3-17 RDP アプリケーション オプション

| オプション | 説明 |
|-------|--|
| | <ul style="list-style-type: none"> サーバー上の seamlessrdp のパスを入力します アプリケーションのパスを入力します <p>たとえば、c:\seamless に seamlessrdp をインストールした場合に Microsoft Word を実行するには、[アプリケーション] ボックスに次のコマンドを入力します：</p> <pre>c:\seamless\seamlessrdpsHELL.exe</pre> <pre>c:\Program Files\Microsoft\Word.exe</pre> |

- c. 代替シェル：以下の「RDP 代替シェル オプション」の表のオプションを入力または選択します。このモードでは、ネイティブアプリケーションのように、デスクトップ上にウィンドウが 1 つだけ表示されます。

表 3-18 RDP 代替シェル オプション

| オプション | 説明 |
|-------------|--|
| [コマンド] | 代替シェル モードで実行するアプリケーションを指定します。アプリケーションの実行コマンドを入力します。たとえば、Microsoft Word を実行する場合は次のように入力します： Word.exe. |
| [ディレクトリ] | アプリケーションのプログラム ファイル用のサーバーの作業ディレクトリのパスを入力します。たとえば、Microsoft Word の作業ディレクトリは次の場所になります：C:\Program Files \Microsoft. |
| [ウィンドウのサイズ] | 次のウィンドウサイズのどれかを選択します： <ul style="list-style-type: none"> [全画面] [固定] [割合] |
| [割合によるサイズ] | [ウィンドウのサイズ]ボックスで[割合]を選択した場合、画面に対するデスクトップウィンドウの割合を入力または選択します |
| [固定サイズ] | [ウィンドウのサイズ]ボックスで[固定]を選択した場合、デスクトップウィンドウの幅および高さをピクセル単位で入力または選択します |

- 完了したら、[次へ]をクリックします。
- [オプション]で、以下の「RDP オプション」の表に示す適切なオプションを選択します。

表 3-19 RDP オプション

| オプション | 説明 |
|--------------------|--------------------|
| [モーション イベントを有効にする] | この接続で移動イベントを有効にします |
| [データ圧縮を有効にする] | この接続にデータ圧縮を使用します |
| [暗号化を有効にする] | この接続の暗号化を有効にします |
| [ビットマップを強制的に更新する] | ビットマップを強制的に更新します |

表 3-19 RDP オプション (続き)

| オプション | 説明 |
|-----------------|---------------------------|
| [管理者コンソールに接続する] | 接続を管理者コンソール ポートに接続します |
| [送信するホスト名] | この接続のリモート システムにホスト名を送信します |

9. [ローカル リソース]で、「RDP ローカル リソース」の表に従って適切なオプションを選択し、[次へ]をクリックします。

表 3-20 RDP ローカル リソース

| オプション | 説明 |
|---------------------|---|
| [リモート コンピューターのサウンド] | 設定可能な値は次のとおりです：[再生しない]、[このコンピューターで再生する]、[リモート コンピューターで再生する] |
| [ポートのマッピングを有効にする] | [デバイス マッピング]で、[ポートのマッピングを有効にする]を選択します。これによって、USB 記憶装置のマッピングが有効になります。使用するドライブ文字をドロップダウン リストから選択します |
| [プリンターのマッピングを有効にする] | [デバイス マッピング]で、[プリンターのマッピングを有効にする]を選択します |

10. [操作環境]で、適切なオプションを選択し、[次へ]をクリックします。

表 3-21 RDP の操作環境オプション

| オプション | 説明 |
|--------------------------|---|
| [接続速度を選択してパフォーマンスを最適化する] | 設定可能な値は次のとおりです：[カスタム]、[モデム]、[LAN]、[ブロードバンド] |
| [デスクトップの背景] | この接続用のデスクトップを設定します |
| [フォントスムージング] | この接続用のフォント スムージング オプションを設定します |
| [デスクトップ構成] | この接続用のデスクトップ構成オプションを設定します |
| [ドラッグ中にウィンドウの内容を表示する] | デスクトップ上でウィンドウをドラッグ中にウィンドウの内容を表示します |
| [メニューおよびウィンドウのアニメーション] | メニューおよびウィンドウのアニメーションを有効にします |
| [テーマ] | この接続のテーマを有効にします |

11. [次へ]をクリックして続行します。
12. 適切な詳細設定オプションを設定します ([10 ページの表 3-10 「新規接続の詳細設定」](#)を参照してください)。
13. [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを閉じます。

 **注記：** RDP の USB リダイレクトを有効にするには、USB マネージャー ユーティリティを使用します。詳しくは、[40 ページの USB デバイスのリダイレクト](#)を参照してください。

HP TeemTalk

新しい HP TeemTalk 接続は、以下の 2 つの方法で追加できます。

- [18 ページの HP TeemTalk 作成ウィザードによる HP TeemTalk 接続の追加](#)
- [19 ページの手動による HP TeemTalk 接続の追加](#)

HP Teemtalk について詳しくは、『HP TeemTalk Terminal Emulator 7.3 ユーザー ガイド』を参照してください。

HP TeemTalk 作成ウィザードによる HP TeemTalk 接続の追加

1. [接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [Teemtalk]を選択して、[TeemTalk 作成ウィザード]をクリックします。以下の表に示す適切な接続オプションを設定します。

表 3-22 HP TeemTalk 接続オプション

| オプション | 説明 |
|------------|---|
| [セッション名] | セッションの名前 |
| [トランスポート] | 接続に使用するネットワーク送信の種類。設定可能な値は次のとおりです：[TCP/IP]、[Serial]（シリアル）、[SSH2]、[SSL] |
| [接続] | 使用する接続方法。ボタンを使用して接続の詳細設定オプションを設定できます |
| [エミュレーション] | 次のエミュレーションタイプがあります：[hp70092]、[IBM 3151]、[IBM3270 Display]（IBM3270 ディスプレイ）、[IBM3270 Printer]（IBM3270 プリンター）、[IBM5250 Display]（IBM5250 ディスプレイ）、[IBM5250 Printer]（IBM5250 プリンター）、[MD Prism]、[TA6530]、[VT Series]（VT シリーズ）、[Wyse] |

3. [次へ]をクリックして続行します。
4. 適切な詳細設定オプションを設定します。

表 3-23 HP TeemTalk 詳細設定オプション

| オプション | 説明 |
|------------------|-------------------------------|
| [エミュレーション プリンター] | HP TeemTalk のエミュレーション プリンター設定 |
| [自動ログオン] | HP TeemTalk の自動ログイン設定 |
| [キー マクロ] | HP TeemTalk のキー マクロ設定 |
| [マウス動作] | HP TeemTalk のマウス動作設定 |
| [ソフト ボタン] | HP TeemTalk のソフト ボタン設定 |
| [属性] | HP TeemTalk の属性設定 |
| [AUX ポート] | HP TeemTalk の AUX ポート設定 |
| [ホットスポット] | HP TeemTalk のホットスポット設定 |

5. 適切な設定を設定します。

表 3-24 HP TeemTalk オプション

| オプション | 説明 |
|-------------------|---|
| [設定] | 19 ページの表 3-25 「HP TeemTalk の設定」に示す設定が表示されます |
| [開始セッションが接続されました] | 接続された状態でセッションを開始します |
| [ステータス バーを表示する] | この接続のステータス バーを表示します |

表 3-25 HP TeemTalk の設定

| オプション | 説明 |
|-------------------|--|
| [設定バーを表示] | 設定バーを表示します |
| [現在のウィンドウ位置を保存] | [設定を保存]をクリックしたときに現在のウィンドウのサイズおよび位置が保存され、次回起動したときに復元されます 注記： ウィンドウのサイズや位置を更新した場合は、[設定を保存]をクリックすると新しい値が保存されます |
| [全画面表示モードで実行] | ウィンドウのフレーム、ソフトボタン、メニューバー、および設定バーを非表示にして、全画面表示モードにします 注記： このオプションは次回の起動に伴って、[設定バーを表示]および[現在のウィンドウ位置を保存]オプションが上書きされるまで有効になりません |
| [ブラウザ コマンド] | ボックス内に、Web ブラウザーを実行するコマンドを以下のように入力します <code>/ display html links Firefox</code> |
| [コマンドラインの起動オプション] | 起動オプションの別の場所を指定します 注記： HP TeemTalk コマンドライン起動オプションについては、HP TeemTalk ターミナル エミュレーターの『ユーザー ガイド』を参照してください |

6. [次へ]をクリックして続行します。
7. 適切な確定オプションを設定します。

表 3-26 HP TeemTalk 確定オプション

| オプション | 説明 |
|--------------------|-----------------------|
| [デスクトップにアイコンを作成する] | この接続のデスクトップアイコンを作成します |
| [セッションの概要] | 作成されるセッションの概要が表示されます |

8. [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを閉じます。

手動による HP TeemTalk 接続の追加

1. [接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [Teemtalk]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-27 HP Teemtalk 手動接続の構成設定

| オプション | 説明 |
|----------------|----------------|
| [名前] | 接続の名前 |
| [システム ビープを鳴らす] | システム警告音を有効にします |

[次へ]をクリックして続行します。

- 適切な詳細設定オプションを設定します（10 ページの表 3-10 「新規接続の詳細設定」を参照してください）。
- [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを終了します。

Web ブラウザー

Mozilla Firefox ブラウザー ベースの Web ブラウザーを使用して接続を作成します。

- 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
- [Web ブラウザー]を選択して、以下の表に示すオプションを設定します。

表 3-28 新規 Web ブラウザー接続の構成設定

| 項目 | 説明 |
|------------------|---------------------|
| [名前] | 接続の名前 |
| [URL] | 接続の URL |
| [キオスク モードを有効にする] | キオスク モードを有効にします |
| [全画面表示を有効にする] | 接続に全画面表示モードを使用します |
| [印刷ダイアログを有効にする] | 印刷ダイアログ ボックスを有効にします |

[次へ]をクリックして続行します。

- 適切な詳細設定オプションを設定します（10 ページの表 3-10 「新規接続の詳細設定」を参照してください）。
- [完了]をクリックして設定を保存し、ウィザードを終了します。

RGS

- RGS 接続を追加するには、[接続]→[追加]→[RGS]の順にクリックします。
- 適切な構成オプションを設定します。

 **注記：** RGS について詳しくは、『HP Remote Graphics ソフトウェア ユーザー ガイド』を参照してください。

表 3-29 新規 RGS 接続の構成設定

| 項目 | 説明 |
|------|-------|
| [名前] | 接続の名前 |

表 3-29 新規 RGS 接続の構成設定 (続き)

| 項目 | 説明 |
|--------------------|---|
| [モード-サーバー] | RGS 接続のモードとして、[標準モード]または[ディレクトリモード]を選択します [標準モード]を選択した場合は、RGS Sender を実行しているシステムのホスト名または IP アドレスを入力します [ディレクトリモード]を選択した場合は、ディレクトリ ファイルのパスを入力します |
| [警告のタイムアウト] | 適切な警告タイムアウト値を設定します。この設定秒数を過ぎても RGS Sender を検出できない場合に、RGS Receiver から警告が表示されます |
| [エラーのタイムアウト] | 適切なエラー タイムアウト値を設定します。この設定秒数を過ぎても RGS Sender を検出できない場合に、接続が切断されます |
| [グローバルイメージ更新を使用する] | 有効にすると、変更された部分だけでなく、画面全体が更新されます |
| [境界線] | 設定可能な値は次のとおりです：[有効]、[無効]、[現在の設定のまま] 注記： 境界線を[無効]に設定すると、ウィンドウの移動、サイズ変更、最小化に使用する境界線が非表示になります |

[次へ]をクリックして続行します。

- 適切な詳細設定オプションを設定します（[10 ページの表 3-10 「新規接続の詳細設定」](#)を参照してください）。
- [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

VMware Horizon View

このセクションでは、VMware Horizon View 接続の機能について説明します。PCoIP (PC-over-IP) は VMware に搭載されている通信プロトコルで、仮想マシンへのリモート アクセスを実現します。

VMware Horizon View 接続の設定

以下の手順で VMware Horizon View 接続を設定します。

- 以下の VMware Horizon View Manager サーバー情報を確認します。
 - ホスト名
または
 - IP アドレス
- HP ThinPro デスクトップで、[接続]→[追加]の順に選択します。
- [VMware Horizon View]を選択して、以下の表に示すネットワーク オプションを設定します。

表 3-30 VMware Horizon View ネットワーク接続オプション

| オプション | 説明 |
|-------|-------|
| [名前] | 接続の名前 |

表 3-30 VMware Horizon View ネットワーク接続オプション (続き)

| オプション | 説明 |
|----------|---|
| [サーバー] | リモート VMware Horizon View サーバーのホスト名または IP アドレス |
| [ユーザー名] | 接続に使用するユーザー名 |
| [パスワード] | 接続に使用するパスワード |
| [ドメイン] | 接続に使用するドメイン |
| [デスクトップ] | 接続に使用するデスクトップ |

4. 完了したら、[次へ]をクリックします。
5. [接続]ウィザードの[ログインオプション]→[全般]で、適切なオプションを選択します。

表 3-31 VMware Horizon View ログインオプション

| オプション | 説明 |
|--------------------|---|
| [自動ログイン] | 接続の確立時に自動的にログインします |
| [スマートカードログインを許可する] | ローカルに接続されたスマートカードを使用してログイン資格情報を提供することを許可します |
| [切断後に閉じる] | HP ThinPro をサーバーから切断した後、[VMware Horizon View]ウィンドウを閉じます |
| [上部メニューバーを非表示にする] | 上部メニューバーを非表示にします |
| [接続のセキュリティレベル] | 設定可能な値は次のとおりです：[すべての接続を許可する]、[警告]、[安全でない接続を拒否する] |
| [コマンドライン引数] | 接続に使用するコマンドライン引数を有効にします |

6. 完了したら、[完了]をクリックします。

VMware Horizon View Manager サーバーへのログイン

1. [VMware Horizon View Client]画面で、次の資格情報を入力します。
 - a. ユーザー名
 - b. パスワード
 - c. ドメイン
2. [接続]をクリックします。

 **注記：** クライアントは以下のタスクを実行します。

VMware Horizon View Manager サーバーに接続します。

認証を実行し、サーバーから使用可能なデスクトップを取得します。

使用可能なデスクトップが1つしかない場合（または接続設定でデスクトップが指定されている場合）、ユーザーは自動的にそのデスクトップに接続されます。

VMware Horizon View でキオスク モードを使用

キオスク モードでは、クライアントは、あらかじめ定義されているユーザー資格情報を使用して、起動時にリモート デスクトップに自動的にログインします。ログアウト、接続の切断、ネットワーク障害などによって接続が失われた場合には、接続が復帰すると自動的に復元されます。

セッションを最小化してログイン画面に戻るには、キーボード ショートカット **Ctrl + Alt + End** を使用します。

キオスク モードのログインを設定するには、以下の操作を行います。

1. 管理者として、HP ThinPro デスクトップで**[接続]**を選択します。
2. 接続を選択して**[編集]**をクリックします。
3. **[ネットワーク]**で、以下の設定に値を入力します。
 - a. サーバー名（ホスト名または IP アドレス）
 - b. ユーザー名
 - c. パスワード
 - d. ドメイン
 - e. デスクトップ（該当する場合）
4. **[詳細設定]**で、**[自動開始の優先度]**の値を**[1]**に設定します。
5. **[適用]**→**[OK]**の順にクリックします。
6. システムを再起動します。

VMware Horizon View でマルチメディア リダイレクトを使用

VMware Horizon View 接続は、Microsoft RDP プロトコルと同時に使用するとき、MMR 機能をサポートします。

VMware Horizon View でマルチモニター セッションを使用

VMware Horizon View は、マルチモニター セッションをサポートします。仮想化環境を向上させるため、初期設定の VMware Horizon View セッションは全画面を使用し、すべてのモニターにまたがって表示されます。異なったウィンドウ サイズを選択するには、接続のデスクトップ プールのプロトコル タイプで、**[全画面-すべてのモニター]**を選択してから、ウィンドウのサイズのリストから別のオプションを選択します。次回セッションに接続するときは、ここで選択したサイズのウィンドウが開きます。

VMware Horizon View でキーボード ショートカットを使用

Windows のキーボード ショートカット

Windows システムの管理を容易にするため、VMware Horizon View は Windows のキーボード ショートカットをサポートしています。たとえば、VMware Horizon View で **Ctrl + Alt + Del** を使用すると、以下のオプションを提供するメッセージが表示されます。

- **Ctrl + Alt + Del** コマンドを送る
- セッションを切断：他にセッションを終了する方法がないときに使用します。

Windows のキーボード ショートカットは、リモート デスクトップ セッションに転送されます。リモート セッション内では、**Ctrl + Alt + Tab** や **Ctrl + Alt + F4** のようなローカルのキーボード

ショートカットは機能しません。セッションを切り替えるには、**[接続設定]**の**[全般]**タブで**[上部メニューバーを非表示にする]**のチェックを外すか、次のレジストリ キーを編集します：root/ConnectionType/view/connections/{UUID}/hideMenuBar.

メディア キー

VMware Horizon View は、リモート デスクトップ セッション中にメディア キーを使用して、音量、再生/一時停止、ミュート（消音）などのオプションを制御します。Windows Media Player などのマルチメディア プログラムもサポートされます。

VMware Horizon View でデバイス リダイレクトを使用

VMware Horizon View で USB リダイレクトを使用

VMware Horizon View 接続で USBR を有効にするには、USB マネージャーで、リモート プロトコルとして**[VMware Horizon View]**を選択します。

VMware Horizon View で大容量記憶装置リダイレクトを使用

VMware Horizon View 接続で大容量記憶装置リダイレクトを使用するには、RDP 接続プロトコルを使用する必要があります。

USB ドライブまたは内蔵 SATA ドライブのドライブ リダイレクトを実行するには、以下の操作を行います。

- ▲ USB マネージャーで、**[リモート プロトコル]**を**[ローカル]**に設定して、USB リダイレクトを無効にします。

これによって、クライアントに接続された内蔵/外付けの大容量記憶装置ごとに、仮想デスクトップ セッション内にネットワークマッピングされたドライブが作成されます。リモートに接続される記憶装置のファイル システム フォーマットは重要ではありません。たとえば、ext3 でフォーマットされた USB キーを Windows 接続で使用できます。

VMware Horizon View でプリンター リダイレクトを使用

PCoIP プロトコルで確立された接続では、USBR はプリンターをサポートします。

VMware Horizon View でオーディオ リダイレクトを使用

オーディオ録音機能が不要な場合は、高レベル オーディオ リダイレクトを使用します。オーディオは 3.5 mm コネクタから出力されます。USB ヘッドセットを接続すれば、初期設定で USB ヘッドセットから出力されます。ローカルのオーディオ マネージャーを使用して入出力レベルを調節し、再生デバイスとキャプチャ デバイスを選択します。

VMware Horizon View Client は、PCoIP 接続タイプによる高レベル オーディオ録音リダイレクトをサポートしていません。オーディオ録音をサポートする必要がある場合は、以下のどちらかの方法を使用してください。

- VMware Horizon View Client 1.7 以上を使用している場合は、RDP プロトコルを使用して、3.5 mm コネクタまたは USB ヘッドセットから高レベル オーディオ リダイレクトを行います。

 **注記:** RDP プロトコルを使用して高レベル オーディオ録音リダイレクトを行うには、サーバーが高レベル オーディオ録音リダイレクトをサポートしている必要があります。クライアントは Windows 7 以上を実行している必要があります。さらに、レジストリ キー `HKLM\SYSTEM\CurrentControlSet\Control\Terminal Server\WinStations\RDP-Tcp\fdisableAudioCapture` を次の値に設定する必要があります : 0

- USB ヘッドセットにマイクが搭載されている場合は、USB-R を使用します。セッションにリダイレクトされるよう USB ヘッドセットを設定します。ヘッドセットはオーディオ デバイスとして表示されます。初期設定では、USB オーディオ デバイスはリダイレクトされず、VMware Horizon View Client は高レベル オーディオ リダイレクトを使用します。USB ヘッドセットをリダイレクトするには、クライアントの USB マネージャーを使用し、USB ヘッドセットがリダイレクトされるよう設定します。[VMware Horizon View]が USB-R プロトコルとして選択され、[デバイス]の下でリダイレクト対象のヘッドセットにチェックが入っていることを確認してください。

 **注記:** VMware は、ヘッドセットで USB-R を使用することを推奨していません。USB-R プロトコルを使用してオーディオ データのストリーミングを行うには、大容量のネットワーク帯域幅が必要です。また、オーディオ品質が低くなる可能性もあります。

VMware Horizon View でスマート カード リダイレクトを使用

スマート カードを使用して VMware Horizon View サーバーにログインするには、以下の操作を行います。

1. HP ThinPro デスクトップで、[接続]を選択します。
2. 既存の接続を選択し、[編集]をクリックします。
3. [接続設定]ダイアログ ボックスの[全般]で、[スマート カード ログインを許可]を選択します。
接続を開始すると、VMware Horizon View Client にサーバー資格情報のリストが表示されます。
4. 資格情報のロックを解除して VMware Horizon View Manager サーバーにアクセスするには、サーバーの適切な PIN を入力します。

 **注記:** 正しい PIN を入力すると、ユーザーの資格情報を使用して、VMware Horizon View Manager サーバーにログインします。スマート カード ログインをサポートするためのサーバーの設定について詳しくは、VMware Horizon View の説明書を参照してください。サーバーがスマート カード ログインを許可する設定になっている限り、ユーザーの資格情報が自動的に渡されるため、PIN を再入力しなくてもデスクトップにログインします。

 **注記:** VMware Horizon View Manager 管理サーバーにスマート カードでログインするには、クライアントにローカルのスマート カード ドライバーをインストールしておく必要があります。リモート ホストにログインすると、USB-R ではなく仮想チャネルによってリモート ホストにスマート カードが渡されます。この仮想チャネル リダイレクトにより、電子メール署名、画面ロックなどのタスクにスマート カードを使用できますが、このスマート カードは、Windows の[デバイス マネージャー]にスマート カード デバイスとして表示されない可能性があります。

 **注記:** リモート ホストには、適切なスマート カード ドライバーをインストールしておく必要があります。

VMware Horizon View 詳細設定オプション

高度なコマンドライン引数の使用

高度なコマンドライン引数を使用するには、以下の操作を行います。

1. VMware Horizon View Connection Manager で、**[接続設定の編集]**→**[全般]**の順に選択します。
2. **[コマンドライン引数]**で、VMware Horizon View Client の起動時に渡す引数を入力します。

高度なコマンドラインオプションに関するヘルプを表示するには、以下のどちらかを実行します。

- コマンドラインで「vmware-view --help」と入力し、**Enter** キーを押します。
- <http://www.vmware.com/jp/> から、VMware の Linux 版 Horizon View Client の説明書を参照してください。

RDP ではなく PCoIP を使用してデスクトップ接続を開始

RDP ではなく PCoIP を使用してデスクトップ接続を開始するには、以下の操作を行います。

1. **[接続]**→**[追加]**の順にクリックします。
2. **[接続]**ウィンドウで接続を選択して、**[接続]**をクリックします。
必要に応じて、フィールドに View Connection Server のホスト名または IP アドレスを入力します。
3. ユーザー名、パスワード、およびドメイン名を対応するフィールドに入力して、**[接続]**をクリックします。
4. デスクトップ プールの右側にある矢印をクリックします。**[プロトコル]**→**[PCoIP]**の順に選択します。
5. **[接続]**をクリックします。

 **注記：** PCoIP を初期設定のプロトコルとして設定するか、またはユーザーが選択したプロトコルを無効にするには、**[VMware Horizon View Manager]**ウィンドウ (<http://<サーバー名>/admin>) でデスクトップ プール設定を編集します。

 **注記：** VMware Horizon View の USB リダイレクトを有効にするには、USB マネージャーユーティリティを使用します。詳しくは、[40 ページの USB デバイスのリダイレクト](#)を参照してください。

XDMCP

XDMCP は、リモートの X Server に直接接続する場合に使用します。X Server は、Linux、BSD (Berkeley Software Distribution)、および HP-UX (Hewlett-Packard UniX など多くの Unix 系オペレーティングシステムで、グラフィックスを表示するために使用されています。

1. XDMCP 接続を追加するには、**[接続]**→**[追加]**の順にクリックします。
2. **[Xdmcp]**を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-32 新規 XDMCP 接続の構成設定

| 項目 | 説明 |
|-------------|-------|
| [名前] | 接続の名前 |

表 3-32 新規 XDMCP 接続の構成設定 (続き)

| 項目 | 説明 |
|-----------------|--|
| [種類] | XDMCP 接続の種類。設定可能な値は次のとおりです：[選択]、[クエリ]、[ブロードキャスト] |
| [アドレス] | このオプションは、[種類]が[クエリ]に設定されている場合に指定する必要があります |
| [フォントサーバー] | |
| [フォントサーバーを使用する] | ローカルにインストールされているフォントではなく、リモートの X フォントサーバーを使用します |
| [フォントサーバー] | [フォントサーバーを使用する]を選択した場合は、フォントサーバーを指定します |
| [ディスプレイの設定] | XDM 接続のディスプレイ設定を指定するときにクリックします。この設定を行わない場合は、初期設定が使用されます。この画面について詳しくは、 37 ページのディスプレイの設定 を参照してください |

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します ([10 ページの表 3-10 「新規接続の詳細設定」](#)を参照してください)。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

SSH

SSH (Secure Shell) は、Linux、BSD、および HP-UX などの Unix 系のオペレーティング システムにコマンドラインからリモートでアクセスする場合によく使用されます。SSH も暗号化されています。

1. SSH 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [SSH]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-33 新規 SSH 接続の構成設定

| 項目 | 説明 |
|---------------|--|
| [名前] | 接続の名前 |
| [ネットワーク] | |
| [アドレス] | リモートシステムの IP アドレス |
| [ポート] | 接続に使用するリモート ポート |
| [ユーザー名] | 接続に使用するユーザー名 |
| [アプリケーションの実行] | 接続するために実行するアプリケーション |
| [オプション] | |
| [圧縮] | サーバーと Thin Client の間で送信されるデータを圧縮するには、このオプションを選択します |
| [X11 接続の転送] | サーバーが X Server の場合にこのオプションを選択すると、ユーザーは SSH セッションからユーザー インターフェイスを起動し、Thin |

表 3-33 新規 SSH 接続の構成設定 (続き)

| 項目 | 説明 |
|------------------|--|
| | Client でユーザー インターフェイスをローカル表示できるようになります |
| [TTY を強制的に割り当てる] | このオプションを選択してコマンドを指定すると、一時的なセッションが開始されてコマンドが実行されます。コマンドが完了すると、セッションが終了します。コマンドを指定しないと、セッションはオプションを選択しなかった場合と同様に正常に動作します |
| [スタイル] | |
| [前景色] | SSH セッションでのテキストの初期設定の色です |
| [背景色] | SSH セッションでの背景の初期設定の色です |
| [フォント] | 設定可能な値は次のとおりです : [7X14]、[5X7]、[5X8]、[6X9]、[6X12]、[7X13]、[8X13]、[8X16]、[9X15]、[10X20]、[12X24] |

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します (10 ページの表 3-10 「新規接続の詳細設定」を参照してください)。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

Telnet

Telnet は、コマンドラインでのリモートアクセスに使用される古い方式です。Telnet は暗号化されていません。

1. Telnet 接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [Telnet]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-34 新規 Telnet 接続の構成設定

| 項目 | 説明 |
|--------|---|
| [名前] | 接続の名前 |
| [アドレス] | リモートシステムの IP アドレス |
| [ポート] | リモートシステムで使用するポート |
| [スタイル] | |
| [前景色] | 前景の色 |
| [背景色] | 背景の色 |
| [フォント] | 設定可能な値は次のとおりです : [7X14]、[5X7]、[5X8]、[6X9]、[6X12]、[6X13]、[7X13]、[8X13]、[8X16]、[9X15]、[10X20]、[12X24] |

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します（[10 ページの表 3-10 「新規接続の詳細設定」](#)を参照してください）。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

カスタム

独自の Linux アプリケーションをインストールする場合、カスタム接続を使用すると[HP Connection Manager]からそのアプリケーションを起動できるようになります。

1. カスタム接続を追加するには、[接続]→[追加]の順にクリックします。
2. [カスタム]を選択して、適切な構成オプションを設定します。

表 3-35 新規カスタム接続の構成設定

| 項目 | 説明 |
|---------------------|---------------------|
| [名前] | 接続の名前 |
| [実行するコマンドを入力してください] | リモート接続するために実行するコマンド |

[次へ]をクリックして続行します。

3. 適切な詳細設定オプションを設定します（[10 ページの表 3-10 「新規接続の詳細設定」](#)を参照してください）。
4. [完了]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

コピー

接続をコピーするには、以下の操作を行います。

- ▲ [接続名]の下で選択する接続をクリックして、[コピー]をクリックします。
接続のコピーが[接続名]の下の一覧に表示されます。

削除

接続を削除するには、以下の操作を行います。

- ▲ [接続名]の下で選択する接続をクリックして、[削除]をクリックします。
接続が[接続名]の下の一覧から削除されます。

編集

1. 接続を編集するには、[接続名]の下で接続をクリックして、[編集]をクリックします。
その接続の接続設定ウィンドウが開きます。
2. 接続を編集して、[適用]をクリックします。
3. [OK]をクリックします。

ユーザー ビュー

 **注記:** この機能は管理者モードでのみ使用できます。

1. ユーザー モードで表示される接続を選択するには、**[ユーザー ビュー]**をクリックします。
[接続名]バーの上に**[有効にする]**ボタンと**[無効にする]**ボタンが表示されます。
2. 一覧から 1 つ以上の接続を選択します。
3. **[有効にする]**をクリックしてユーザー モードでのこの接続の表示を許可するか、**[無効にする]**をクリックしてユーザー モードでこの接続を使用できないようにします。
4. 変更を完了してから、**[ユーザー ビュー]**を再度クリックします。

4 コントロールパネル



コントロールパネルのユーティリティは、以下のタブに分類されています。

- [31 ページの周辺機器](#)
- [41 ページのセットアップ](#)
- [46 ページの管理](#)
- [53 ページの詳細設定](#)

管理者モードでは、コントロールパネルのすべての項目を使用できます。管理者モード以外では、設定によって許可されている項目だけを使用できます。管理者モード以外でも設定可能な項目は、管理者モードで[セットアップ]タブの[HP ThinPro の構成]ツールを使用して変更できます。

周辺機器

これらのユーティリティでは、周辺機器を設定できます。このタブで、以下のユーティリティを使用できます。

- [32 ページのクライアント アグリゲーション](#)
- [37 ページのディスプレイの設定](#)
- [38 ページのキーボードのレイアウト](#)
- [39 ページのマウス](#)
- [39 ページのプリンター](#)
- [39 ページの SCIM 入カメソッドの設定](#)

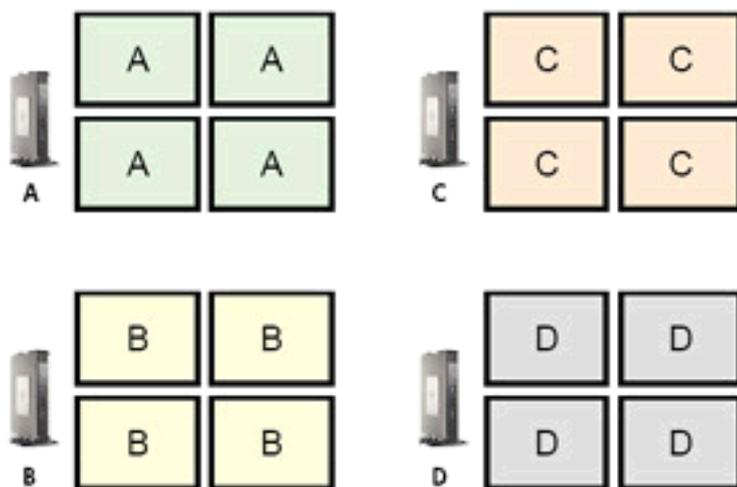
- [39 ページのサウンド](#)
- [40 ページの ThinPrint](#)
- [40 ページのタッチ スクリーン](#)
- [40 ページの USB デバイスのリダイレクト](#)

クライアント アグリゲーション

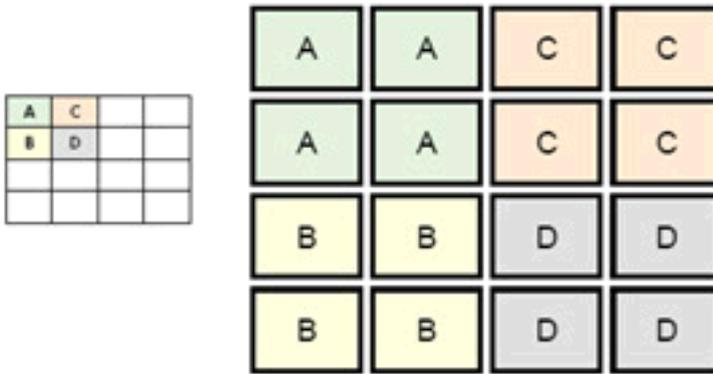
Thin Client は、最大で 4 台のモニターをサポートします。追加の画面領域が必要な場合は、クライアント アグリゲーションを使用することによって、最大で 4 台の Thin Client をつないで 1 つのキーボードおよびマウスで制御できます。各 Thin Client が最大で 4 台のモニターをサポートしているため、他のハードウェアやソフトウェアを追加しなくても、最大 4 台のコンピューターおよび 16 台のモニターをクライアント アグリゲーションによって 1 つのキーボードおよびマウスで制御できるようになります。

クライアント アグリゲーションの概要

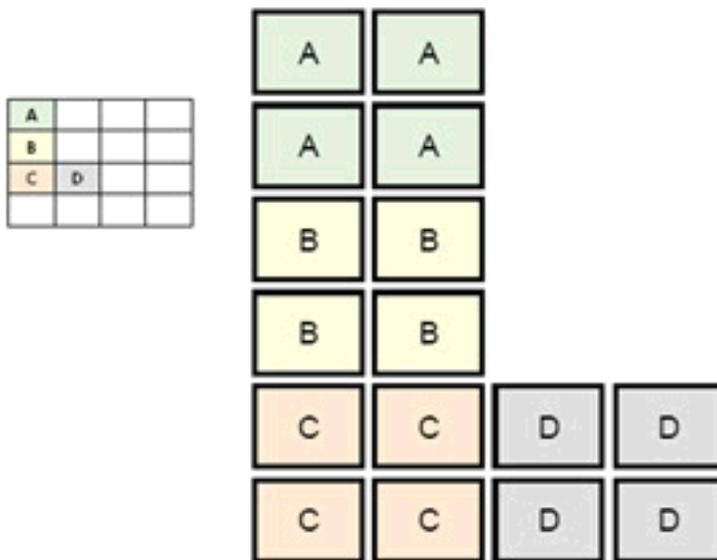
それぞれに 4 台のモニターが接続された、4 台の Thin Client があると仮定します。[ディスプレイ設定]ダイアログを使用すると、Thin Client とモニターは以下に示すように、Thin Client にそれぞれ 2×2 の配列のモニターが設定されます。



クライアント アグリゲーションを使用すると、4 台の Thin Client を 4×4 のグリッド上に配置できます。以下の図は、4×4 のグリッドを使用した長方形の配列上に配置された Thin Client の、配置の一例です。たとえば、Thin Client A のモニターの右側からさらに右にマウス ポインターを移動すると、そのポインターが Thin Client C のモニターの左側に表示されます。同様に、キーボード入力も Thin Client A から Thin Client C にリダイレクトされます。



以下の図は、4×4 のグリッドを使用した Thin Client の別の配置およびその結果として得られるモニターの配置例です。



この構成では、マウス ポインターを Thin Client A のモニターの右側からさらに右に移動すると、そのポインターが Thin Client D のモニターの左側の上 1/3 の領域に表示されます。同様に、マウス ポインターを Thin Client B のモニターの右側からさらに右に移動すると、そのポインターは Thin Client D のモニターの左側の中央 1/3 の領域に表示されます。最後に、マウス ポインターを Thin Client C のモニターの右側からさらに右に移動すると、ポインターは Thin Client D のモニターの左側の下 1/3 の領域に表示されます。

注記： デスクトップ ウィンドウは、各 Thin Client をまたいで表示したり、クライアント コンピューター間で移動したりすることはできません。通常、各 Thin Client は関連付けられたリモート コンピューターへの接続に基づいてウィンドウを作成するため、Thin Client 間でウィンドウを移動する必要がありません。

キーボードおよびマウスが物理的に接続されている Thin Client をアグリゲーション サーバーと呼びます。他の Thin Client をアグリゲーション クライアントと呼びます。マウス ポインターがどれかのアグリゲーション クライアント上に存在する場合、それらのアグリゲーション サーバーとなる Thin Client からのマウスおよびキーボードの入力は暗号化され、選択されたアグリゲーション クライアントに対してネットワーク経由で送信されます。アグリゲーション クライアントは、それらのマウスおよびキーボードの入力の暗号化を解除して、アグリゲーション クライアントのローカル デスクトップに渡します。

クライアント アグリゲーションは、[Synergy]と呼ばれるオープン ソース ソフトウェア パッケージに基づいており、その暗号化は[stunnel]と呼ばれるパッケージによって提供されます。

 **注記：** [Synergy]および[stunnel]ソフトウェアは（Embedded OS バージョン 9.xx および 10.xx を実行している）HP dc72 Blade Workstation クライアントや HP dc73 Blade Workstation クライアントにもインストールされるため、クライアント アグリゲーション構成では、これらのクライアント コンピューターを HP gt7725 Thin Client に相互接続できます。

クライアント アグリゲーションの設定

 **注記：** クライアント アグリゲーションは、各 Thin Client（アグリゲーション サーバーおよび各アグリゲーション クライアント）上で個別に設定する必要があります。

クライアント アグリゲーションを設定するには、以下の 2 つの処理を行います。

1. [34 ページのアグリゲーション クライアントの設定](#)
2. [34 ページのアグリゲーション サーバーの設定](#)

アグリゲーション クライアントの設定

各アグリゲーション クライアントで、以下の操作を行います。

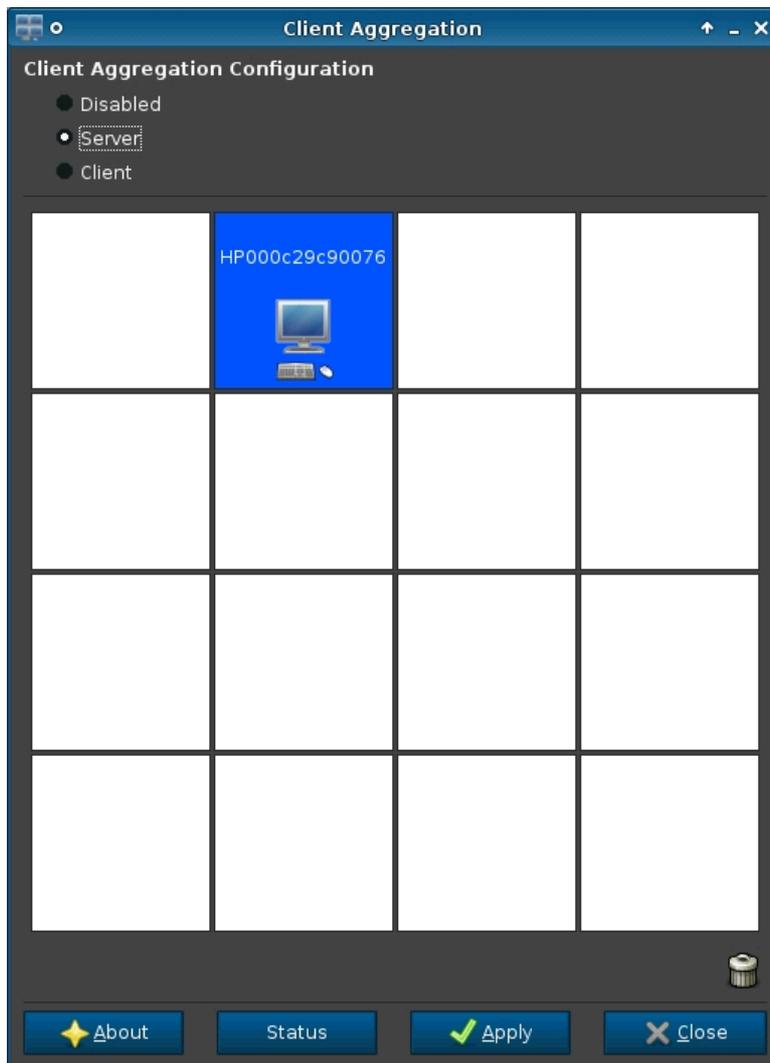
1. [クライアント アグリゲーション]をダブルクリックします。
2. [クライアント]をクリックします。
3. フィールドにアグリゲーション サーバーのサーバー ホスト名または IP アドレスを入力します。
4. [適用]をクリックして変更を適用します。

アグリゲーション サーバーの設定

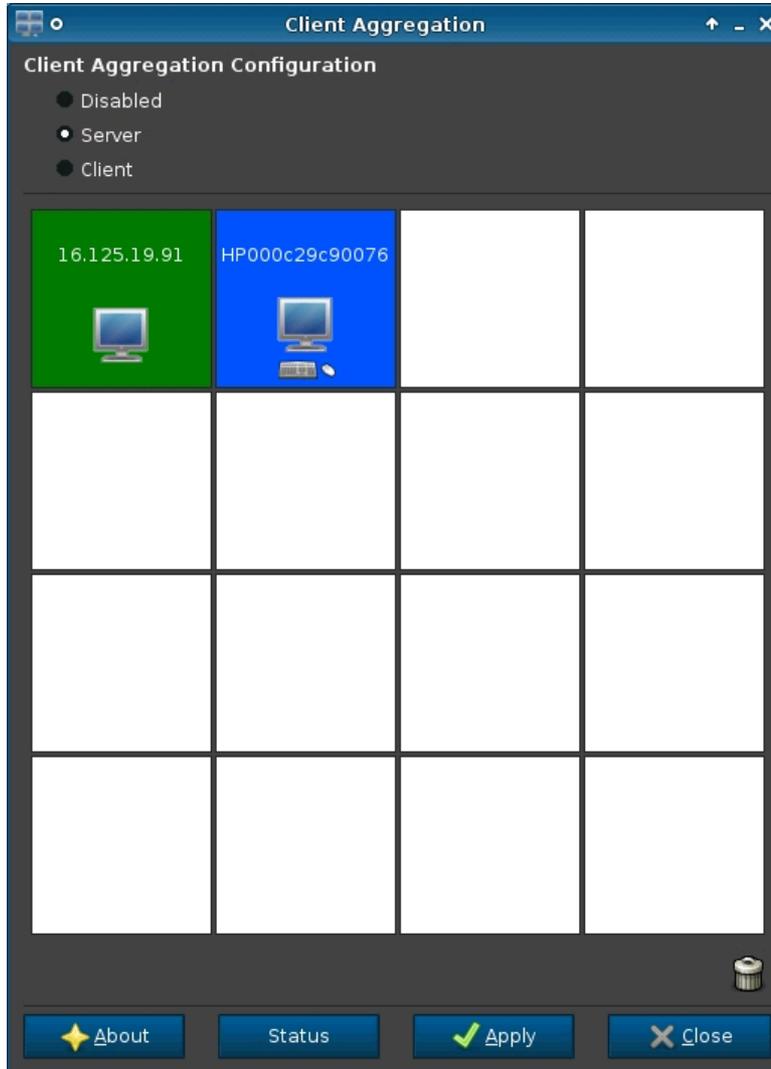
アグリゲーション サーバーを設定するには、以下の操作を行います。

1. [クライアント アグリゲーション]をダブルクリックします。
2. [サーバー]をクリックします。

3. アグリゲーションサーバーの Thin Client は、ホスト名を含む紫色のボックス内に表示されます。アグリゲーションサーバーをクリックしてから、4×4 のグリッド内の目的の場所にドラッグします。以下の図では、アグリゲーションサーバーの Thin Client が、4×4 のグリッドの先頭の行の 2 番目の列に配置されています。



4. 4×4 のグリッド内で、最初のアグリゲーションクライアントを配置する場所をクリックし、そのクライアント名または IP アドレスを入力します。以下の図では、IP アドレスが 16.125.19.91 のアグリゲーションクライアントが、4×4 のグリッドの先頭の行の最初の列に配置されています。完了したら、**Enter** キーを押します。アグリゲーションクライアントが緑色のボックスに表示されます。



5. これと同じ手順で、4×4 のグリッド内にアグリゲーションクライアントを最大 2 台追加して、合計で最大 3 台のアグリゲーションクライアントを配置します。

4×4 のグリッド内のアグリゲーションサーバーおよびアグリゲーションクライアントの配置は、クライアントコンピュータをクリックしてから新しい場所にドラッグすることによって、いつでも変更できます。

アグリゲーションクライアントおよびアグリゲーションサーバーを設定すると、暗号化された相互の通信を自動的に確立しようとします。コンピューター間の接続状態を表示するには、**[ステータス]** をクリックします。

クライアントアグリゲーションの無効化

クライアントアグリゲーションを無効にするには、以下の操作を行います。

1. [クライアントアグリゲーション]をダブルクリックします。
2. [無効]を選択します。
3. [適用]→[閉じる]の順にクリックします。

ディスプレイの設定

このユーティリティを使用すると、プロファイルを追加、編集、および削除できます。プロファイルとは、解像度、リフレッシュレート、ビット深度、および画面の回転の有効/無効設定が保存されたディスプレイ設定のことです。

通常、管理者は以下の初期設定プロファイルを使用します。

- DDC (Display Data Channel) を使用して、モニターの解像度およびリフレッシュレートを問い合わせる
- 24 ビットまたは 32 ビットの色深度を使用する
- 画面を回転させない

以下の場合、管理者は初期設定とは別のプロファイルを設定できます。

- ネットワーク経由で転送されるデータまたはグラフィックスチップに送信されるデータの量が少ないため、16 ビットの色深度を使用して Microsoft RDP または [Citrix ICA] のパフォーマンスを向上させる
- 特定の解像度またはビット深度でなければ正常に機能しないアプリケーションを使用するユーザーがいる
- さまざまな種類のモニターが組織内で使用されているが、1 つのディスプレイプロファイルに標準化する
- モニターを（縦向きまたは横向きに）回転させる必要があるアプリケーションを実行するユーザーがいる

 **注記：** [ディスプレイの設定] ウィンドウの内容は、実際にお使いのハードウェアによって異なります。モデルによって、設定できる最大のモニター数は 4 台、2 台、または 1 台のみになります。

プロファイルの追加

プロファイルを追加するには、以下の操作を行います。

1. [ディスプレイの設定]をダブルクリックします。
2. [新規作成]をクリックします。
3. [プロファイル設定]の下にある[プロファイル名]フィールドに名前を入力します。
4. お使いのモニターに適した[解像度]を選択します。
5. [深度]を選択します。
6. お使いのモニターに適した[モニターの向き]を選択します。
7. [保存]をクリックして変更内容を保存するか、[元に戻す]をクリックして変更を破棄します。

8. [ディスプレイ構成]で、[プライマリ ディスプレイのプロファイル]および[セカンダリ ディスプレイのプロファイル]を選択します。
9. [モード]を設定します。
10. [設定のテスト]をクリックしてプロファイルを確認します。
11. [適用]→[閉じる]の順にクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

プロファイルの編集

プロファイルを編集するには、以下の操作を行います。

1. [ディスプレイの設定]をダブルクリックします。
2. [プロファイル]一覧からプロファイルを選択します。
3. 必要に応じて、[プロファイル設定]および[ディスプレイ構成]を編集します。
4. [設定のテスト]をクリックしてプロファイルを確認します。
5. [適用]→[閉じる]の順にクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

プロファイルの削除

プロファイルを削除するには、以下の操作を行います。

1. [ディスプレイの設定]をダブルクリックします。
2. [プロファイル]一覧からプロファイルを選択して、[削除]をクリックします。
3. [適用]→[閉じる]の順にクリックし、変更を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

キーボードのレイアウト

使用するキーボードが1つのみの場合は、[プライマリ]タブで設定します。2つ目のキーボードは[セカンダリ]タブで設定します。

キーボードのレイアウトを設定するには、以下の操作を行います。

1. [キーボードのレイアウト]をダブルクリックします。
2. [標準キーボード]の一覧でキーボードの種類を選択します。
3. キーボードの[モデル]、[レイアウト]、および[種別]を設定します。
4. 必要に応じて、[ローカルキーボードショートカットを最小限にする]をクリックし、Thin Clientにマッピングされるキーボードショートカットの数を最小限に抑えます。
5. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

マウス

マウスの動作およびカーソルサイズを設定するには、以下の操作を行います。

1. [マウス]をダブルクリックします。
2. 以下の3つのタブでオプション項目を設定します。
 - [振る舞い]: 左手用または右手用マウス操作、動きの設定、およびダブルクリックの速度を設定します。
 - [カーソル]: カーソルのサイズを設定します。
 - [アクセシビリティ]: マウスのエミュレーションを有効にします。
3. [閉じる]をクリックして設定を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

プリンター

このコントロールパネル項目では、system-config-printer という CUPS プリンターの設定ツールが起動します。詳しくは、<http://cyberelk.net/tim/software/system-config-printer/> (英語サイト) を参照してください。

SCIM 入力メソッドの設定

これは、SCIM (Smart Common Input Method) プラットフォームの GUI (グラフィカルユーザーインターフェイス) セットアップユーティリティです。Thin Client 自体で中国語および日本語の入力方式を設定するために使用されます。このオープンソースプログラムについて詳しくは、SCIM プラットフォームの Web サイト、http://sourceforge.net/apps/mediawiki/scim/index.php?title=Main_Page/ (英語サイト) を参照してください。

- ▲ [SCIM 入力メソッドの設定]をダブルクリックします。

サウンド

ここでは、オーディオのパラメーターを指定できます。

1. [サウンド]をダブルクリックします。
2. [スイッチを表示する]をクリックして、追加設定を表示します。
3. 個々のスライダーコントロールを使用して、ソースごとにサウンドレベルを調整できます。
4. [ファイル]→[オプション]の順にクリックして、追加のデバイスおよび制御オプションを表示します。
5. [表示]→[管理]の順にクリックして、音量調整プロファイルを表示および管理します。
6. デバイスおよび制御パラメーターを設定してから[ファイル]→[終了]の順にクリックして設定を保存し、ダイアログボックスを閉じます。

ThinPrint

ThinPrint を使用するには、以下の操作を行います。

1. [ThinPrint]をダブルクリックします。
2. [帯域幅]、[パケットサイズ]、および各プリンターの[プリンター設定]を設定します。
3. [OK]をクリックします。

タッチ スクリーン

タッチ スクリーンを使用すると、ディスプレイの画面に触れることで Thin Client を操作できます。

タッチ スクリーンを有効にするには、以下の操作を行います。

1. [タッチ スクリーン]をダブルクリックします。[タッチ スクリーンを有効にする]を選択します。
2. [コントローラーのタイプ]および[デバイス ファイル名]を選択し、必要に応じて[左右反転]または[上下反転]を選択します。
3. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。
変更内容は次回ログイン時に有効になることを知らせるメッセージが表示されます。
4. [はい]をクリックしてログオフし、デスクトップを再起動して変更内容を有効にします。
[いいえ]をクリックすると、現在のデスクトップ環境は変更されません。
5. [コントロールパネル]→[周辺機器]→[タッチ スクリーン]→[調整]の順にクリックして、タッチ スクリーンを調整します。

 **注記：** タッチ スクリーンは、タッチ スクリーンを有効にしてデスクトップを再起動した場合にのみ調整できます。

ディスプレイを回転させた場合は、タッチ スクリーンでは画面上の移動が正しく追跡されません。

USB デバイスのリダイレクト

1. クライアントで、管理者としてログインします。
2. [コントロールパネル]で、[USB マネージャー]をダブルクリックします。
3. 以下のリモート プロトコルのどれか 1 つを選択します。
 - Citrix
 - ローカル
 - RDP
 - VMware Horizon View
4. 設定が[ローカル]の場合は、[デバイスのマウントを許可する]オプションおよび[デバイスを読み取り専用でマウントする]オプションも指定できます。
5. [USB マネージャー]画面の[デバイス]で、システムに接続されているデバイスを確認します。
6. リダイレクトの初期設定を上書きするには、変更を必要とするデバイスを選択します。
7. 選択したデバイスについて、以下のうちひとつのリダイレクト オプションを選択します。

- a. Use Default (初期設定)
 - b. Redirect (リダイレクト)
 - c. Do Not Redirect (リダイレクトしない)
8. 完了したら、**[適用]**を選択し、**[OK]**をクリックします。

セットアップ

これらのユーティリティを使用すると、要件に応じて Thin Client をセットアップできます。[セットアップ]タブでは以下のユーティリティを使用できます。

- [41 ページの背景マネージャー](#)
- [42 ページの日付と時刻](#)
- [42 ページの言語](#)
- [43 ページのネットワーク](#)
- [44 ページのスクリーンセーバー](#)
- [45 ページのセキュリティ](#)
- [45 ページの HP ThinPro の構成](#)

背景マネージャー

[HP Background Manager] (HP 背景マネージャー) を使用して、デスクトップの背景として使用する画像ファイル、方向、または背景色を変更します。

デスクトップの背景の設定を管理するには、以下の操作を行います。

1. HP ThinPro の**[コントロールパネル]**で、**[デスクトップの背景]**をダブルクリックします。
2. デスクトップの背景として使用する画像ファイルを変更するには、以下の操作を行います。
 - a. [HP Background Manager]で、**[ファイル]**の横の**[参照]**をクリックします。
 - b. **[壁紙の検索]**で、新しい画像を選択し、**[開く]**をクリックします。

 **注記:** 以下のどれかの形式の画像ファイルを選択します: *.jpg、*.jpeg、*.png、*.tiff、*.pbm。
- c. **[適用]**をクリックします。
3. デスクトップの背景色を変更するには、以下の操作を行います。
 - a. **[色]**を選択します。
 - b. **[色の選択]**ダイアログ ボックスで、新しい**[基本色]**を選択するか、**[カスタム色]**を定義します。
 - c. **[適用]**をクリックします。
4. デスクトップの背景の方向またはスタイルを変更するには、以下の操作を行います。
 - a. **[スタイル]**で、以下のどれかの設定を選択します: **[中央に表示]**、**[並べて表示]**、**[画面に合わせて伸縮]**、**[画面の縦幅に合わせる]**、または **[画面の横幅に合わせる]**。
 - b. **[適用]**をクリックします。

5. 初期設定の背景画像を復元するには、[初期設定に戻す]を選択し、[適用]をクリックします。
6. 変更を保存して[HP Background Manager]を終了するには、[OK]をクリックします。

日付と時刻

日付、時刻、およびタイムゾーン情報を設定するには、以下の操作を行います。

1. HP ThinPro の[コントロールパネル]で、[日付と時刻]をダブルクリックします。
2. [時刻の設定]画面で、以下のどれかの操作を行います。
 - 世界地図からタイムゾーンを選択します。
 - [タイムゾーン]で、以下のオプションを設定します。
 - [国名]
 - [Linux タイムゾーン]
 - [Windows タイムゾーン]
3. カレンダーに週番号を表示する場合は、[時刻の設定]画面の[日付と時刻]タブの[日付]の下にある[週番号を表示する]をクリックします。
4. 時刻を手動で設定するには、[日付と時刻]タブの[時間]で矢印キーを使用して設定します。
5. 時刻を 24 時間形式で表示するには、[日付と時刻]タブの[時間]の下にある[24 時間形式]を選択します。
6. ネットワーク タイム サーバーを使用するように設定する場合は、[日付と時刻]タブにある[タイムサーバー]で、以下のどれかのオプションを選択します。
 - [DHCP タイムサーバーを使用する]
 - [以下のタイムサーバーを使用する]
 - [タイムサーバーを使用しない]
7. [適用]をクリックします。
8. 変更を保存して[時刻の設定]ダイアログボックスを閉じるには、[OK]をクリックします。

言語

1. HP ThinPro の[コントロールパネル]で、[言語]をダブルクリックします。
2. 使用する言語を選択します。
3. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログボックスを閉じます。変更を有効にするには、ログアウトする必要があります。変更を確定すると、ログアウトまでの時間カウントが開始されます。

 **注記：** 言語の選択は、DHCP (Dynamic Host Configuration Protocol) タグ 192 に文字列の値として「English」(英語)、「German」(ドイツ語)、「Spanish」(スペイン語)、「French」(フランス語)、「Japanese」(日本語)、「Simplified Chinese」(簡体字中国語)、「Traditional Chinese」(繁体字中国語)、または「Korean」(韓国語)を設定する方法でも可能です。

ネットワーク

ネットワークを設定するには、以下の操作を行います。

1. HP ThinPro の[コントロールパネル]で、[ネットワーク]をダブルクリックします。
2. [有線]タブを設定します。
 - a. IPv6 を有効にする：IPv6 接続を有効にします。初期設定は IPv4 です。
 - b. Ethernet 速度：リンク速度と全二重または半二重の組み合わせの一覧から選択できます。
 - c. 接続方法：[Automatic]（自動）を選択するとアドレスが自動設定されます。[Static]（静的）を選択すると手動で静的アドレスを設定できます。
 - d. 静的アドレスの設定：[IPv6 を有効にする]が無効の場合
 - IP アドレス
 - サブネットマスク
 - デフォルト ゲートウェイ
 - e. 静的アドレスの設定：[IPv6 を有効にする]が有効の場合
 - IPv6 アドレス
 - サブネット プレフィックスの長さ
 - デフォルト ゲートウェイ
 - f. セキュリティ設定
認証
 - TTLS
 - 内部認証：詳細な認証レイヤ
 - CA 証明書：セキュリティ証明書の場所
 - 匿名 ID：任意の一時名（オプション）
 - ユーザー名：ユーザーのユーザー名
 - パスワード：ユーザーのパスワード
 - PEAP
 - 内部認証：詳細な認証レイヤ
 - PEAP のバージョン：使用する PEAP のバージョン
 - CA 証明書：セキュリティ証明書の場所
 - 匿名 ID：任意の一時名（オプション）
 - ユーザー名：ユーザーのユーザー名
 - パスワード：ユーザーのパスワード
 - TLS
 - CA 証明書：セキュリティ証明書の場所
 - ユーザー証明書：ユーザー証明書の場所

- 秘密キー：秘密キーの場所
- ID：ユーザーの ID 文字列
- 秘密キーのパスワード：ユーザーのキーのパスワード

3. [DNS]タブを設定します。

- ホスト名：HP Thin Client のホスト名
- DNS サーバー：DNS サーバー名
- ドメインの検索：DNS 検索に使用するドメイン
- HTTP プロキシ：HTTP 通信に使用するプロキシ
- FTP プロキシ：FTP 通信に使用するプロキシ

4. [IPSec]タブを設定します。

- 追加：新しいルールの追加
- 編集：強調表示されているルールの編集
- 削除：強調表示されているルールの削除

5. [VPN]タブを設定します。

接続インターフェイス

- Cisco
 - ゲートウェイ：サーバーのゲートウェイ アドレス
 - グループ名：グループの名前
 - グループ パスワード：グループのパスワード
 - ドメイン：ドメイン名
 - ユーザー名：ユーザーのユーザー名
 - ユーザー パスワード：ユーザーのパスワード
- PPTP
 - ゲートウェイ：サーバーのゲートウェイ アドレス
 - NT ドメイン：NT ドメイン名
 - ユーザー名：ユーザーのユーザー名
 - ユーザー パスワード：ユーザーのパスワード

6. [HP Velocity]タブを設定します。

パケット損失防止の有効化：可能な場合はインターネット上でのデータの損失を防止します。

スクリーンセーバー

スクリーンセーバーを設定するには、以下の操作を行います。

1. HP ThinPro の[コントロールパネル]で、[スクリーンセーバー]をダブルクリックします。
2. [スクリーンセーバーの設定]を選択します。

- a. [スクリーンセーバーを有効にする]を選択するか、スクリーンセーバーが不要な場合は選択を解除します。
 - b. 操作しない状態になってからスクリーンセーバーが起動するまでの時間（分）を選択します。フィールドに数字を入力するか、上または下矢印キーを使って数字を選択します。
 - c. 必要に応じて、[復帰時にパスワードを要求する]を選択します。
 - d. [モード]を選択します。
 - [ブランク スクリーン]
 - [ロゴ]
 - e. [ロゴ]を選択した場合は、[ロゴをカスタマイズする]を選択し、[選択]をクリックして、目的のロゴ ファイルを検索します。
3. 一定の時間使用していない状態が続くとディスプレイがオフになるようにするには、[ディスプレイの電源管理]を設定します。
 - a. [ディスプレイの電源管理を有効にする]を選択するか、この機能を設定しない場合は選択を解除します。
 - b. ディスプレイがオフになるまでのアイドル時間（分）を選択します。フィールドに数字を入力するか、上または下矢印キーを使って数字を選択します。
 4. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

セキュリティ

この機能を使用すると、管理者パスワードおよびユーザー パスワードを変更できます。

パスワードを変更するには、以下の操作を行います。

1. [セキュリティ]をダブルクリックします。
2. [管理者]または[ユーザー]を選択して、[パスワードの変更]をクリックします。
3. [新しいパスワード]フィールドおよび[確認]フィールドに新しいパスワードを入力して、[OK]をクリックします。
4. ログインを必須にする場合は、[デスクトップへのアクセスにログインを必須にする]オプションを有効にします。
5. [OK]をクリックします。

 **注記：** ユーザーおよび管理者の両方のパスワードを初期設定値から変更することを強くおすすめします。

HP ThinPro の構成

以下の項目を選択できます。

- [接続]：管理者モード以外で表示される接続およびそれに対して許可された操作
- [コントロール パネル]：管理者モード以外で表示されるアプリケーション
- [デスクトップ]：デスクトップのオプション
- [システム]：資産情報およびウェイク オン LAN モード

 **注記：** モデルによっては、このオプションを使用できない場合があります。

接続およびコントロールパネルのユーザー アクセス権の設定

[接続設定]タブおよび[コントロールパネル]タブでユーザー アクセス権を設定するには、以下の操作を行います。

1. [HP ThinPro の構成]をダブルクリックします。
2. 左パネルにある[接続]をクリックして、ユーザーによるアクセスを許可する接続のチェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外します。
3. 左パネルにある[コントロールパネル]をクリックして、ユーザーによるアクセスを許可するアプリケーションのチェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外します。
4. [適用]→[OK]の順にクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

ユーザーのデスクトップおよびシステムのオプションの設定

[デスクトップ]タブおよび[システム]タブで設定を実行するには、以下の操作を行います。

1. [HP ThinPro の構成]をダブルクリックします。
2. 左パネルにある[デスクトップ]をクリックして、デスクトップ オプションのチェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外します。
3. 左パネルにある[システム]をクリックして、チェック ボックスにチェックを入れるか、チェックを外して、資産情報を設定したりウェイク オン LAN モードの有効/無効を切り替えたりします。

 **注記：** モデルによっては、このオプションを使用できない場合があります。

4. [適用]→[OK]の順にクリックして、ダイアログ ボックスを閉じます。

管理

これらのユーティリティは、Thin Client ネットワークの管理に使用できる管理ツールです。[管理]タブでは以下のユーティリティを使用できます。

- [47 ページの AD/DDNS マネージャー](#)
- [47 ページの HP Easy Deploy](#)
- [47 ページの HP Easy Config](#)
- [47 ページの HP Easy Update](#)
- [47 ページの工場出荷時設定のリセット](#)
- [48 ページの HP Automatic Update](#)
- [48 ページの HPDM Agent](#)
- [48 ページの SSHD マネージャー](#)
- [48 ページの ThinState](#)
- [53 ページの VNC シャドウイング](#)

AD/DDNS マネージャー

このユーティリティを使用すると、Thin Client を Active Directory Server の組織単位 (OU) に追加したり、動的 DNS による Thin Client の名前と IP アドレス関連付けの自動更新を有効にしたりできます。Active Directory データベースに対する認証は有効になりません。

1. [AD/DDNS マネージャー]をダブルクリックします。
2. 以下の情報を各フィールドに入力します。
 - [アクティブディレクトリドメイン]
 - [コンピューター用組織単位 (OU)]
 - [管理者ユーザー名]
 - [管理者ユーザーパスワード]
3. この情報がシステムによって自動更新されるようにする場合は、[クライアントから動的 DNS をアップデート]をクリックします。
4. [情報]をクリックして、以下の情報を表示します。
 - [アクティブディレクトリサーバー]
 - [証明書]
 - [時刻の同期]
 - [AD コンピューターステータス]完了したら、[OK]をクリックします。
5. [OK]をクリックし、変更を保存してダイアログボックスを閉じます。

HP Easy Deploy

[HP Easy Deploy]は、[HP Easy Tools]管理スイートに含まれるツールです。詳しくは、HP の Web サイト、<http://www.hp.com/support/>にある『HP Easy Tools 管理者ガイド』を参照してください。

HP Easy Config

[HP Easy Config]は、[HP Easy Tools]管理スイートに含まれるツールです。詳しくは、HP の Web サイト、<http://www.hp.com/support/>にある『HP Easy Tools 管理者ガイド』を参照してください。

HP Easy Update

[HP Easy Update]は、[HP Easy Tools]管理スイートに含まれるツールです。詳しくは、HP の Web サイト、<http://www.hp.com/support/>にある『HP Easy Tools 管理者ガイド』を参照してください。

工場出荷時設定のリセット

[工場出荷時設定のリセット]では、以下を行うことができます。

- 現在の設定の保存
- 工場出荷時設定の復元
- 工場出荷時のイメージの復元

これらの機能にアクセスするには、以下の操作を行います。

1. [工場出荷時設定のリセット]をダブルクリックします。
2. 目的の作業に応じたボタンをクリックします。

HP Automatic Update

HP Automatic Update を設定するには、以下の操作を行います。

1. [自動更新]をダブルクリックします。
2. 再起動時にこのシステムを更新する場合は、[システムの起動時に[自動更新]を有効にする]をクリックします。
3. 前の手順のオプションを有効にした場合、ftp、http、または https 経由でサーバー アドレスを提供するには、[手動設定を有効にする]をクリックします。[サーバー]、[パス]、[ユーザー名]、および[パスワード]の各フィールドに手動で入力することもできます。

HPDM Agent

この機能を使用して、HP Device Management Agent を設定します。

1. [HPDM Agent]をダブルクリックして、この画面にアクセスします。
2. [全般]タブを使用して、以下の設定を行います。
 - [バックアップ ゲートウェイ]
 - [プル間隔]
 - [ログ レベル]
 - [遅延スコープ]
3. [グループ]タブを使用してグループを設定します。事前に割り当てたグループを[DHCP]タブから選択するか、静的なカスタム グループを使用できます。
4. [OK]をクリックして変更内容を保存します。

 **注記：** 変更は[HP Device Management Agent]の再起動後に反映されます。

SSHD マネージャー

SSH (Secure Shell) アクセスを有効にするには、以下の操作を行います。

1. [SSHD マネージャー]をダブルクリックします。
2. [着信セキュア シェル アクセスを有効にする]をクリックします。
3. 必要に応じて、[管理者以外による Secure Shell 経由のアクセスを有効にする]をクリックします。
4. [OK]をクリックし、設定を保存してダイアログ ボックスを閉じます。

ThinState

HP ThinState を使用して HP ThinPro イメージをコピーし、モデルおよびハードウェアが同一の別の HP ThinClient に、その設定を展開できます。

- [49 ページの HP ThinPro イメージの管理](#)
- [51 ページの HP ThinPro 構成の管理](#)

キャプチャ済みのイメージおよび設定を使用して、別のシステム上にコピー（展開）したり、設定を変更した後にその時点でのキャプチャを元の設定に復元したりできます。

 **注記：** HP ThinState はスタンドアロン ツールではありません。このツールには Thin Client イメージ内から管理者のみがアクセスできます。

HP ThinState を実行するには、以下のものがが必要です。

- HP が認定した USB フラッシュ ドライブ（USB キーとも呼ばれます）
- HP が提供する HP ThinPro イメージを含む HP Thin Client ユニット

HP ThinPro イメージの管理

HP ThinState では、以下の操作ができます。

- [49 ページの FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ](#)
- [49 ページのリモート サイトからの HP ThinPro イメージの展開](#)
- [50 ページの起動可能な USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro イメージのキャプチャ](#)

FTP サーバーへの HP ThinPro イメージのキャプチャ

1. [ThinState] をダブルクリックします。
2. [HP ThinPro のイメージ] を選択し、[次へ] をクリックします。
3. [HP ThinPro のイメージのコピーを作成する] を選択し、[Next] をクリックします。
4. [FTP サーバー] をクリックして、[次へ] をクリックします。

 **注記：** コピーを作成する前に、イメージを置くディレクトリが FTP サーバー上に存在している必要があります。イメージ ディレクトリが FTP サーバーに存在しない場合、[HP ThinState] はエラーを発生します。

初期設定のイメージ ファイル名は HP ThinPro ホスト名に設定されます。

5. 各フィールドに FTP サーバーの情報を入力し、[イメージを圧縮する] を選択するか、選択を解除します。

 **注記：** HP ThinPro イメージ ファイルは、ディスクを簡単にそのまま保存したものです。圧縮前のサイズは約 512 MB で、アドオンなしの圧縮イメージは約 237 MB です。

6. [完了] をクリックします。

イメージ キャプチャが開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、コピーの進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、[詳細] をクリックして情報を確認します。キャプチャが完了すると、デスクトップが再表示されます。

HP ThinPro イメージのキャプチャが完了します。

リモート サイトからの HP ThinPro イメージの展開

リモート サイトから HP ThinPro イメージを展開する方法は 2 つあります。HP ThinState ツールを直接使用する方法および Web ブラウザー接続を作成する方法です。

HP ThinState ツールを直接使用して展開するには、以下の操作を行います。

1. [ThinState]をダブルクリックします。
2. [HP ThinPro のイメージ]を選択し、[次へ]をクリックします。
3. [HP ThinPro のイメージを復元する]を選択し、[Next]をクリックします。
4. FTP または HTTP プロトコルを選択します。フィールドにリモート サーバーの情報を入力します。

 **注記：** HTTP プロトコルを使用する場合は、[ユーザー名]および[パスワード]は必須ではありません。

使用するイメージ ファイルを確認してください。イメージのアップグレードの開始前に、内容やサイズが確認されることはありません。

5. [完了]をクリックします。

イメージ キャプチャが開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、コピーの進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、[詳細]をクリックして情報を確認します。復元が完了すると、デスクトップが再表示されます。

MD5 チェック サムの確認は、ファイルが FTP サーバー上に存在する場合にのみ実行されます。

 **注記：** 復元を中止した場合、以前に上書きされたイメージが復元されることがなく、フラッシュドライブの内容が破損してしまいます。

Web ブラウザー接続を使用して展開するには、以下の操作を行います。

1. 管理者モードに切り替えます。
2. HP ThinPro イメージが置かれている HTTP サーバーまたは FTP サーバーへの Web ブラウザー接続を作成します。
3. HP ThinPro イメージ ファイルへのリンクを右クリックします。これは通常、ファイル拡張子.dd.gz 付きのリンクです。
4. [[HP ThinState]でリンクを開く]を選択します。
5. 表示される値を確認し、[完了]をクリックしてイメージの配備を開始します。

復元はこれで完了です。

起動可能な USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro イメージのキャプチャ

HP ThinPro イメージを含む起動可能な USB フラッシュ ドライブを使用すると、別の Thin Client 上にイメージを復元または複製できます。

 **注記：** USB フラッシュ ドライブにデータがある場合は、キャプチャを開始する前にバックアップしてください。ThinState によってフラッシュ ドライブが自動的に初期化され、起動可能な USB フラッシュ ドライブが作成されます。このプロセスによって、現在フラッシュ ドライブにあるすべてのデータが消去されます。

1. [ThinState]をダブルクリックします。
2. [HP ThinPro のイメージ]を選択し、[次へ]をクリックします。
3. [HP ThinPro のイメージのコピーを作成する]を選択し、[次へ]をクリックします。

4. **[起動可能な USB フラッシュ ドライブを作成する]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。
5. USB フラッシュ ドライブを Thin Client に接続します。その USB フラッシュ ドライブを選択して、**[終了]**をクリックします。

イメージキャプチャが開始されると、すべてのアプリケーションが停止し、コピーの進行状況を示す新しいウィンドウが表示されます。問題が発生した場合は、**[詳細]**をクリックして情報を確認します。キャプチャが完了すると、デスクトップが再表示されます。

HP ThinPro イメージのキャプチャが完了します。

起動可能な USB フラッシュ ドライブからの HP ThinPro イメージの展開

起動可能な USB フラッシュ ドライブから HP ThinPro イメージをインストールするには、以下の操作を行います。

1. 目的の Thin Client の電源を切ります。
2. 起動可能な USB フラッシュ ドライブを接続します。
3. Thin Client の電源を入れます。

Thin Client が起動可能な USB フラッシュ ドライブを認識して起動を開始するまで、画面が 10～15 秒間黒くなります。

 **注記：** USB フラッシュ ドライブから Thin Client を起動できない場合は、他のすべての USB デバイスを取り外して、この手順を繰り返します。

HP ThinPro 構成の管理

HP ThinPro の構成ファイルには、接続設定および[コントロール パネル]のアプリケーションによって設定された設定が含まれます。構成ファイルは HP ThinPro の特定のバージョンに固有のもので、必ず、同じバージョンの HP ThinPro によって生成された構成ファイルを使用してください。

HP ThinPro では、以下の操作が可能です。

- [51 ページの FTP サーバーへの HP ThinPro 構成の保存](#)
- [52 ページのリモート サーバーからの HP ThinPro 構成の復元](#)
- [52 ページの USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro 構成のキャプチャ](#)
- [52 ページの USB フラッシュ ドライブからの HP ThinPro 構成の復元](#)

FTP サーバーへの HP ThinPro 構成の保存

1. **[ThinState]**をダブルクリックします。
2. **[HP ThinPro の構成]**を選択して、**[次へ]**をクリックします。
3. **[構成を保存する]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。
4. **[FTP サーバー]**をクリックして、**[次へ]**をクリックします。

 **注記：** コピーを作成する前に、構成ファイルを置くディレクトリが FTP サーバー上に存在している必要があります。ファイル ディレクトリが FTP サーバーに存在しない場合、[HP ThinState]はエラーを発生します。

5. フィールドに FTP サーバーの情報を入力して、**[終了]**をクリックします。

HP ThinPro 構成のキャプチャが完了します。

リモート サーバーからの HP ThinPro 構成の復元

1. [ThinState]をダブルクリックします。
2. [HP ThinPro の構成]を選択し、[次へ]をクリックします。
3. [構成を復元する]をクリックして、[次へ]をクリックします。
4. [リモート サーバー]をクリックして、[次へ]をクリックします。
5. FTP または HTTP プロトコルを選択します。フィールドにリモート サーバーの情報を入力します。

 **注記:** HTTP プロトコルを使用する場合は、[ユーザー名]および[パスワード]は必須ではありません。

6. [完了]をクリックします。

HP ThinPro の構成の復元が完了します。

USB フラッシュ ドライブへの HP ThinPro 構成のキャプチャ

1. USB フラッシュ ドライブを Thin Client に接続します。
2. [ThinState]をダブルクリックします。
3. [HP ThinPro の構成]を選択し、[次へ]をクリックします。
4. [構成を保存する]をクリックして、[次へ]をクリックします。
5. [USB キー]をクリックして、[次へ]をクリックします。
6. USB フラッシュ ドライブを選択します。
7. [参照]をクリックします。
8. USB フラッシュ ドライブ内の目的の場所に移動し、プロファイルにファイル名を割り当てます。
9. [保存]をクリックします。
10. [完了]をクリックします。

HP ThinPro 構成のキャプチャが完了します。USB フラッシュ ドライブを取り外します。

USB フラッシュ ドライブからの HP ThinPro 構成の復元

1. Thin Client にコピーするプロファイルを含む USB フラッシュ ドライブを接続します。
2. [ThinState]をダブルクリックします。
3. [HP ThinPro の構成]を選択し、[次へ]をクリックします。
4. [構成を復元する]をクリックして、[次へ]をクリックします。
5. [USB キー]をクリックして、[次へ]をクリックします。
6. USB フラッシュ ドライブを選択します。
7. [参照]をクリックします。
8. USB フラッシュ ドライブ内の目的のプロファイル ファイルをダブルクリックします。
9. [完了]をクリックします。

HP ThinPro の構成の復元が完了します。USB フラッシュ ドライブを取り外します。

VNC シャドウイング

VNC (Virtual Network Computing) は、リモート マシンのデスクトップを表示し、手元にあるマウスおよびキーボードでそのデスクトップを制御できるリモート制御プログラムです。

他の場所から Thin Client にアクセスできるようにするには、以下の操作を行います。

1. [VNC シャドウイング]をダブルクリックします。
2. VNC を使用して Thin Client にアクセスできるようにするには、[VNC シャドウを有効にする]を選択します。
3. VNC セッションを読み取り専用にするには、[VNC 読み取り専用]を選択します。
4. VNC を使用した Thin Client へのアクセスにパスワードを要求するには、[VNC でパスワードを使用する]を選択します。
5. 他のユーザーが VNC を使用して Thin Client にアクセスしてきたときにメッセージを表示し、VNC アクセスを拒否できるようにするには、[VNC で許可/拒否をユーザーに通知する]を選択します。
 - a. [VNC で通知のタイムアウトを表示する]を選択して、ユーザーが拒否できる遅延時間を設定します。
 - b. [ユーザーへの通知メッセージ]フィールドに入力します。
6. [VNC サーバーを今すぐ再設定する]を選択して[OK]をクリックし、VNC サーバーをリセットします。
7. [OK]をクリックして設定を保存し、ダイアログ ボックスを終了します。

 **注記：** 変更を有効にするには、Thin Client を再起動する必要があります。

詳細設定

これらのユーティリティを使用すると、CDA モードを有効にしたり、テキスト ユーティリティを開いたり、ルート ディレクトリにアクセスしたりできます。[詳細設定]タブでは以下のユーティリティを使用できます。

- [53 ページの CDA モード](#)
- [54 ページの証明書](#)
- [56 ページの DHCP オプション マネージャー](#)
- [57 ページのテキスト エディター](#)
- [57 ページの X ターミナル](#)

CDA モード

このユーティリティを使用すると、Citrix デスクトップ アプライアンス (CDA) モードを有効にして、URL を設定できます。

CDA モードを使用するには、以下の操作を行います。

1. Web ブラウザー接続の全般設定が設定されていることを確認します。詳しくは、[9 ページの Web ブラウザー](#)を参照してください。
2. [CDA モード]をダブルクリックします。
3. [CDA を有効にする]を選択し、フィールドに URL を入力します。
4. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

 **注記：** Citrix 環境の URL を値に持つ文字列として DHCP タグ 191 を設定する方法でも、CDA モードを有効にできます。

CDA モードを無効にするには、以下の操作を行います。

1. **Ctrl + Alt + End** キーを押して Web ブラウザーを最小化します。
2. [コントロール パネル]→[詳細設定]→[CDA モード]の順にクリックします。
3. [CDA を有効にする]チェック ボックスのチェックを外します。
4. [OK]をクリックして変更を保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。
デスクトップを再起動すると、CDA モードが無効になります。

証明書

[証明書マネージャー]を使用して、証明書を簡単にインポート、表示、または削除します。

証明書のインポート

ここでは、URL またはファイルから証明書をインポートする方法について説明します。

証明書をインポートするには、以下の操作を行います。

1. HP ThinPro の[コントロール パネル]で、[証明書]をダブルクリックします。
2. [証明書マネージャー]で、インポートする証明書の種類を示す、次のオプションを選択します。
 - お住まいの地域のルート証明機関 (Local Root Certification Authorities)
 - ルート証明機関 (Root Certification Authorities)
 - 個人証明書 (Personnel Certificate)
 - 秘密キー (Private Key)
3. URL から証明書をインポートするには、以下の操作を行います。
 - a. [証明書マネージャー]で、[URL からのインポート]をクリックします。
 - b. [証明書のインポート]→[URL]の順にクリックして、インポートする証明書の URL を入力します。
 - c. [インポート]をクリックします。
 - d. 完了したら、[終了]をクリックします。
4. ファイルから証明書をインポートするには、以下の操作を行います。

- a. [証明書マネージャー]で、[ファイルからのインポート]をクリックします。
- b. [証明書のファイルの選択]画面で[ファイル名]を選択して、インポートする証明書を参照するファイル名を入力します。次に、[開く]をクリックします。

 **注記:** PEM および DER 証明書は、次のファイル形式でインポートします : *.der、*.pem、*.crt、*.cer、*.12、*.pfx、*.key。

5. 完了したら、[閉じる]をクリックします。

証明書の削除

ここでは、[証明書マネージャー]から証明書を削除する方法について説明します。

証明書を削除するには、以下の操作を行います。

1. HP ThinPro の[コントロールパネル]で、[証明書]をダブルクリックします。
2. [証明書マネージャー]で、削除する証明書の種類を示すオプションを選択します。
 - お住まいの地域のルート証明機関 (Local Root Certification Authorities)
 - ルート証明機関 (Root Certification Authorities)
 - 個人証明書 (Personnel Certificate)
 - 秘密キー (Private Key)
3. 証明書を削除するには、以下の操作を行います。
 - a. [証明書マネージャー]で、削除したい証明書を選択します。
 - b. [削除]をクリックします。
4. 完了したら、[閉じる]をクリックします。

証明書の表示

ここでは、[証明書マネージャー]に証明書を表示する方法について説明します。

証明書を表示するには、以下の操作を行います。

1. HP ThinPro の[コントロールパネル]で、[証明書]をダブルクリックします。
2. [証明書マネージャー]で、表示する証明書の種類を示す、次のオプションを選択します。
 - お住まいの地域のルート証明機関 (Local Root Certification Authorities)
 - ルート証明機関 (Root Certification Authorities)
 - 個人証明書 (Personnel Certificate)

 **注記：** 証明機関（CA）には、ルート認証局（ルート CA）と中間認証局（中間 CA）の 2 種類があります。証明書を信頼する場合、および安全な接続を確立する多くの場合では、その証明書が、接続しようとしているデバイスの信頼済みストアに含まれている CA によって発行されたものである必要があります。

証明書内に、サイトの名前が指定されています。

証明書が信頼済み CA から発行されたものでない場合、接続デバイス（Web ブラウザーなど）は、その CA の証明書が信頼済み CA から発行されたものかどうかをチェックします。この過程で、信頼済み CA が見つかった場合は、その時点で安全な接続が確立されます。信頼済み CA が見つからなかった場合は、通常、その時点でデバイスにエラーが表示されます。

信頼チェーンを検証するプロセスを円滑にするため、すべての証明書には [Issued To]（発行先）フィールドと [Issued By]（発行元）フィールドがあります。中間 CA の場合、この 2 つのフィールドには異なった情報が示されます。この情報は、信頼を確立するため、接続デバイスが必要に応じてチェックを続行する場所を示します。

3. 選択した証明書の詳しい照明情報を確認するには、表示するレコードをダブルクリックします。以下のどれか 1 つを選択します。
 - 全般
 - 詳しい説明

VMware Horizon View の HTTPS および証明書管理の要件

VMware Horizon View Client 1.5 および VMware Horizon View Server 5.0 以上には、HTTPS が必要です。初期設定では、VMware Horizon View Client は、自己署名証明書（たとえば、VMware Horizon View Manager の初期設定の証明書）や期限切れの証明書のような、信頼されていないサーバー証明書を警告します。証明書に認証局（CA）の署名があっても、その CA が信頼されていない場合、接続エラーになり、ユーザーは接続を許可されません。

VMware Horizon View Manager サーバーでは、標準の信頼されているルート CA によって検証された署名済み証明書を使用することをおすすめします。このような証明書を使用すると、ユーザーは、確認や特別な設定なしでサーバーに接続できます。内部 CA を使用する場合、以下のタスクのうちどれかが完了するまで、VMware Horizon View Client 接続はエラーになります。

- 管理者モードで、[コントロールパネル]→[詳細設定]→[証明書]の順にクリックします。次に、ファイルまたは URL から証明書をインポートします。
- リモート プロファイル更新を使用して、証明書をインポートします。
- VMware Horizon View Manager で、[接続設定の編集]→[全般]の順に選択します。[接続のセキュリティ レベル]を[すべての接続を許可する]に設定し、[適用]をクリックします。

DHCP オプション マネージャー

DHCP オプション マネージャーは、クライアントで要求される DHCP タグの詳細を表示します。[要求]列でタグ要求を有効にすることによって、個々の DHCP タグを要求または無視するよう Thin Client に指示できます。

DHCP オプション コード番号の横に鉛筆アイコンが表示されているときは、DHCP サーバーの特定のコード番号と競合が発生しているような場合にコード自体を変更できます。各オプションの横にある情報アイコンをクリックすると、Thin Client と DHCP サーバーの両方でのオプションの用途を確認できます。

左下隅のドロップダウン リストを使用して、表示する DHCP タグを変更できます。[カスタム オプションの表示]、[共通オプションの表示]、または[すべてのオプションの表示]を選択できます。

テキスト エディター

このメモ帳スタイルのユーティリティを開くには、以下の操作を行います。

- ▲ [テキスト エディター]をダブルクリックします。

Xターミナル

ローカルの Thin Client のコマンドラインにアクセスするには、以下の操作を行います。

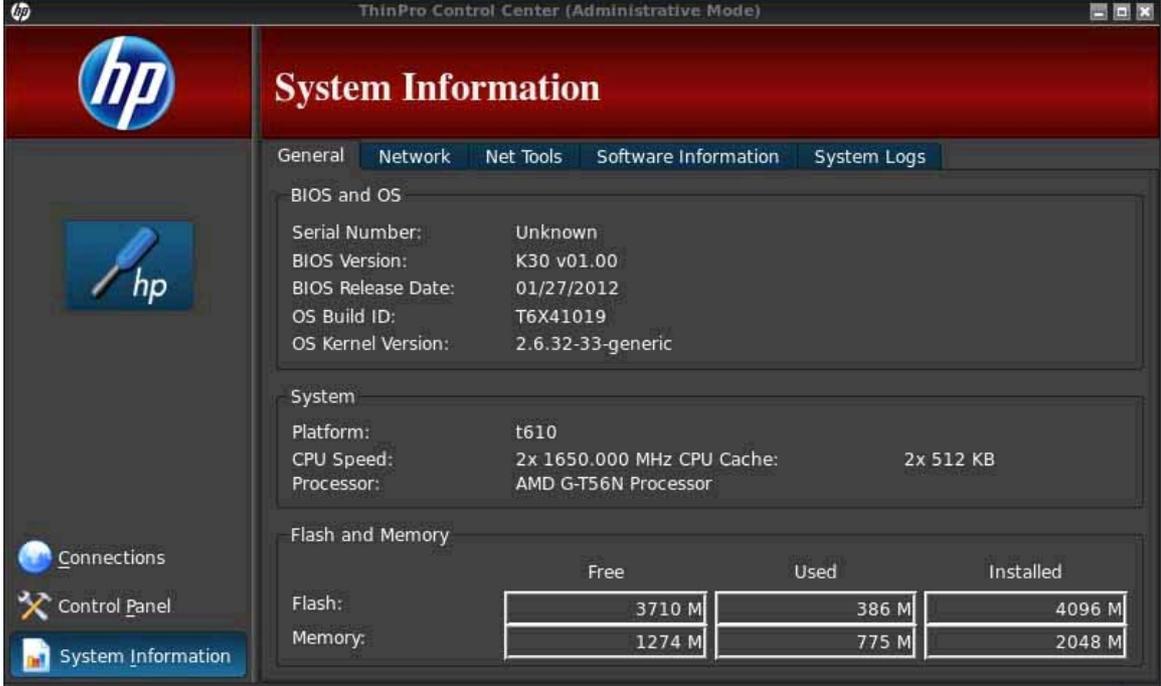
- ▲ [Xターミナル]をダブルクリックします。

キーボード ショートカット

キーボード ショートカットを使用すると、ユーザーは、プログラムの起動や現在のウィンドウの最小化および終了などの操作の実行にキーの組み合わせを割り当てることができます。

1. [キーボード ショートカット]をダブルクリックします。
2. 新しいキーボード ショートカットを作成するには、以下の操作を行います。
 - a. [新規]をクリックします。
 - b. コメントを入力するかまたは[ディレクトリから選択]をクリックして、実行したいプログラムおよび操作を参照します。
 - c. 実行したいこの新しいプログラムおよび操作をトリガーするキーの組み合わせを実行します。
 - d. 間違えた場合は、キーの組み合わせを再度実行してエラーを上書きします。
 - e. [OK]をクリックします。
3. キーボード ショートカットを編集するには、以下の操作を行います。
 - a. 編集したいキーボード ショートカット セクションをクリックします。
 - i. コマンドを編集する場合は、[コマンド]を選択してから[編集]をクリックします。
確認した後コメントを入力するかまたは[ディレクトリから選択]をクリックして、実行したいプログラムおよび操作を参照します。
 - ii. ショートカットを編集する場合は、[ショートカット]を選択してから[編集]をクリックします。
確認した後実行したい新しいプログラムまたは操作をトリガーするキーの組み合わせを入力します。
 - b. [OK]をクリックします。
4. キーボード ショートカットを削除するには、以下の操作を行います。
 - a. 削除したいキーボード ショートカットをクリックします。
 - b. [削除]をクリックします。

5 システム情報



The screenshot displays the HP ThinPro Control Center interface in Administrative Mode. The main window is titled "System Information" and features a sidebar with navigation options: Connections, Control Panel, and System Information (which is currently selected). The main content area is divided into several sections:

- BIOS and OS:** Serial Number: Unknown, BIOS Version: K30 v01.00, BIOS Release Date: 01/27/2012, OS Build ID: T6X41019, OS Kernel Version: 2.6.32-33-generic
- System:** Platform: t610, CPU Speed: 2x 1650.000 MHz, CPU Cache: 2x 512 KB, Processor: AMD G-T56N Processor
- Flash and Memory:** A table showing usage for Flash and Memory.

| | Free | Used | Installed |
|---------|--------|-------|-----------|
| Flash: | 3710 M | 386 M | 4096 M |
| Memory: | 1274 M | 775 M | 2048 M |

[システム情報]画面には以下のタブがあります。

- [59 ページの全般](#)
- [59 ページのネットワーク](#)
- [60 ページのネット ツール](#)
- [60 ページのソフトウェア情報](#)
- [60 ページのシステム ログ](#)

全般

[全般]タブには、以下の情報が表示されます。

- BIOS (Basic Input/Output System) および OS (Operating System)
 - シリアル番号
 - BIOS バージョン
 - BIOS リリース日
 - OS ビルド ID
 - OS のカーネルバージョン
- システム
 - プラットフォーム
 - CPU (Central Processing Unit) 速度
 - プロセッサ
- フラッシュおよびメモリ
 - 空き領域
 - 使用済み領域
 - インストール済み

ネットワーク

[ネットワーク]タブには、以下の情報が表示されます。

- インターフェイス
 - 名前
 - 状態
 - 種類
 - IP アドレス
 - ネットワーク マスク
 - MAC (Media Access Control) アドレス
 - DHCP サーバー アドレス
 - インターフェイス統計
- ネットワーク
 - デフォルト ゲートウェイ
- DNS 設定
 - ホスト名
 - デフォルト ドメイン
 - ネームサーバー

ネット ツール

[ネット ツール]タブでは、テストを実行できます。

1. [システム情報]の[ネット ツール]をクリックします。
2. ツールを選択します。
 - Ping
 - DNS ルックアップ
 - traceroute
3. ホスト名を入力し、診断パラメーターを設定します。
4. [プロセスの開始]をクリックします。
5. 診断ログを消去するには、[ログの消去]をクリックします。

ソフトウェア情報

[ソフトウェア情報]タブには、インストールされた主なソフトウェアの名前およびバージョンが表示されます。

システム ログ

[システム ログ]にはログ情報が表示されます。

- DHCP Wired Leases (DHCP 有線リース) : 現在の有線接続でのリース情報のログを表示します。
- DHCP Wireless Leases (DHCP 無線リース) : 現在の無線接続でのリース情報のログを表示します。
- カーネル : カーネルからのタスク、メッセージ、警告、およびエラーに関するログを表示します。
- X Server : X Server からのタスク、メッセージ、警告、およびエラーに関するログを表示します。

これらのすべてのログの診断アーカイブを保存するには、以下の操作を行います。

1. [診断]をクリックし、ファイルに名前を付けて、保存場所を指定します。
2. [保存]をクリックしてアーカイブを保存し、ダイアログ ボックスを閉じます。

索引

A

Active Directory マネージャー 47
AD/DDNS マネージャー 47
Agent 設定マネージャー 48

C

CDA モード 53
Citrix
 接続の追加 11
Citrix ICA
 接続設定 6
Citrix デスクトップ アプライアンス 53

D

DHCP Option Manager 56

H

HP Automatic Update 48
HP Easy Config 47
HP Easy Tools ウィザード 4
HP Easy Update 47
HP TeemTalk
 ウィザードによる接続の追加 18
 オプション 18
 手動による接続の追加 19
 接続の追加 18
HP ThinPro
 インストール 4
 はじめに 1

I

ICA
 接続設定 6

R

RDP
 オプション 14
 接続設定 9
 接続の追加 14
 設定 9

RGS

オプション 20
接続の追加 20

S

SCIM 39
Secure Shell アクセス 48
SSH
 オプション 27
 接続の追加 27
SSHD マネージャー 48

T

Telnet
 オプション 28
 設定の追加 28
ThinPrint 40
ThinPro
 インストール 4
 構成 45
ThinState 48
 FTP サーバーへの ThinPro イメージのキャプチャ 49
 FTP サーバーへの構成の保存 51
 HP ThinPro の構成の管理 51
 ThinPro イメージの管理 49
 USB フラッシュドライブへの ThinPro イメージのキャプチャ 50
 USB フラッシュドライブからの HP ThinPro イメージの展開 51
 USB フラッシュドライブからの構成の復元 52
 USB フラッシュドライブへの Thin Client 構成のキャプチャ 52
 リモートサーバーからの構成の復元 52
 リモートサイトからの ThinPro イメージの展開 49

V

VMware Horizon View
 オプション 21
 接続の追加 21
VNC シャドウイング 53

W

Web ブラウザー
 オプション 20
 接続設定 9
 接続の追加 20

X

XDMCP
 オプション 26
 接続の追加 26
X ターミナル 57

あ

アグリゲーション 32
 クライアント、無効化 37
 クライアントの概要 32
 クライアントの設定 34
 サーバーの設定 34

い

一般的なシステム情報 59
インストール
 HP ThinPro 4

う

USB リダイレクト 40

お

オプション
 HP TeemTalk 18
 RDP 14
 RGS 20
 SSH 27
 Telnet 28
 VMware Horizon View 21
 Web ブラウザー 20

- XDMCP 26
- カスタム 29
- か**
- カスタム
 - オプション 29
 - 接続の追加 29
- 管理者、ログイン 2
- 管理ユーティリティ 46
- き**
- キーボードショートカット 57
- キーボードレイアウト 38
- く**
- クライアントアグリゲーション 32
 - 概要 32
 - 設定 34
 - 無効化 37
- け**
- 言語 42
- こ**
- 工場出荷時設定のリセット 47
- コピー、接続 29
- コントロールパネル 31
 - Active Directory マネージャ 47
 - AD/DDNS マネージャ 47
 - Agent 設定 マネージャ 48
 - CDA モード 53
 - DHCP オプション マネージャ 56
 - HP Automatic Update 48
 - HP Easy Config 47
 - HP Easy Update 47
 - SCIM 39
 - SSHD マネージャ 48
 - ThinPrint 40
 - ThinPro の構成 45
 - ThinState 48
 - VNC シャドウイング 53
 - X ターミナル 57
 - 管理ユーティリティ 46
 - キーボードレイアウト 38
- クライアントアグリゲーション 32
 - 言語 42
 - 工場出荷時設定のリセット 47
 - サウンド 39
 - 周辺機器のユーティリティ 31
 - 詳細設定ユーティリティ 53
 - スクリーンセーバー 44
 - セキュリティ 45
 - セットアップユーティリティ 41
 - タッチスクリーン 40
 - ディスプレイ設定 37
 - 動的 DNS (Dynamic Domain Name System) マネージャ 47
 - ネットワーク 43
 - 日付と時刻 42
 - プリンター 39
 - マウス 39
 - マウスパッド 57
- さ**
- サウンド 39
- 削除
 - 接続 29
- し**
- 時刻と日付 42, 43
- システム情報 58
 - 全般 59
 - ソフトウェア情報 60
 - ネットツール 60
 - ネットワーク 59
- システムログ 60
- シャドウイング 53
- 周辺機器のユーティリティ 31
- 詳細設定ユーティリティ 53
- 証明書 54
- す**
- スクリーンセーバー 44
- せ**
- セキュリティ 45
- 接続 6
 - 一覧 10
 - 削除 29
- 設定 5
- 追加 10, 29
- 編集 29
- ユーザービュー 30
- 接続の追加
 - Citrix 11
 - HP TeemTalk 18
 - RDP 14
 - RGS 20
 - SSH 27
 - Telnet 28
 - VMware Horizon View 21
 - Web ブラウザー 20
 - XDMCP 26
 - カスタム 29
- 切断 6
- 設定
 - アグリゲーションクライアント 34
 - アグリゲーションサーバー 34
 - クライアントアグリゲーション 34
 - モニター 34
- セットアップおよびインストール、HP ThinPro 4
- セットアップユーティリティ 41
- そ**
- ソフトウェア情報、システム情報 60
- た**
- タスクバー、識別する 3
- タッチスクリーン 40
- つ**
- 追加、接続
 - Citrix 11
 - HP TeemTalk 18
 - RDP 14
 - RGS 20
 - SSH 27
 - Telnet 28
 - VMware Horizon View 21
 - Web ブラウザー 20
 - XDMCP 26
 - カスタム 29

て

ディスプレイ

設定 34, 37

プロファイルの削除 38

プロファイルの追加 37

プロファイルの編集 38

と

動的 DNS (Dynamic Domain Name System) マネージャー 47

ね

ネット ツール、システム情報 60

ネットワーク 43

システム情報 59

は

背景マネージャー 41

ひ

日付と時刻 42, 43

ふ

プリンター 39

へ

編集

接続 29

ま

マウス 39

マウスパッド 57

も

モニターの設定 34

ゆ

ユーザー ビュー、接続 30

る

ルート ディレクトリへのアクセス 57

ろ

ログ、システム 60